

滋賀県第4地区令和7年度使用教科用図書 第2回採択協議会 議事録

◇日 時:令和6年8月7日(水) 午前9時～午後4時30分

◇場 所:彦根市役所 第1委員会室

◇出席者:彦根市教育委員会教育長	西嶋 良年
彦根市教育委員会教育長職務代理者	本田 啓子
彦根市保護者代表	森重 眞紀子
愛荘町教育委員会教育長	徳田 寿
愛荘町保護者代表	木津 知里
豊郷町教育委員会教育長	堤 清司
豊郷町教育委員会教育員	村西 貴美子
甲良町教育委員会教育長	青山 繁
甲良町教育委員会教育員	日下 和子
多賀町教育委員会教育長	山中 健一
多賀町保護者代表	小財 憲司

採択協議会事務局

彦根市教育委員会事務局学校教育課

課長 主幹 副主幹

主査(教科書担当) 主査(特別支援担当)

◇次第

- 1 採択協議会会長あいさつ
- 2 教科書採択の流れ説明
- 3 協議
 - (1) 種目別の選定協議について
 - 中学校の通常学級で使用する教科用図書について
 - 特別支援学級で使用する教科用図書について
 - (2) 小学校の教科用図書の選定について
- 4 連絡
- 5 閉会のあいさつ

◇議事録

事務局:

・定足数の確認

会 長:

・あいさつ

事務局：

教科書採択の流れ説明

この後の進行は、会長をお願いします。

会 長：

それでは皆さんよろしくお願いします。

前回の会議におきまして、教科書採択にあたっては、静謐な環境のもと、公正公平に審議を進めていくという観点から、会議の内容を公表しないこととなりました。

今回の教科書線教科書教科用図書の選定に係る本協議会の公開についてご意見はございますか。

委 員：

私はこの前この採択については、重要な意見活発のために、非公開とするほうがいいと、いうことでお話ししてもらいましたが、傍聴者等の希望があったのかどうかいうことを聞きたいです。

以上です。

会 長：

事務局からお願いします。

事務局：

第1回採択協議会ということでしょうか。

委 員：

はい。

事務局：

第1回の方の採択協議会についてはお声は聞いておりませんでした。

今回の第2回採択協議会につきましては、問い合わせがございまして、「いつ開催されますか」ということ、それから教科書会社の方からも1件、「傍聴させていただいてもよろしいですか」ということで日程を聞かれるということがございました。

会 長：

ありがとうございます。公開についてのご意見どうでしょうか。

委 員：

いろんな細かなやりとりとか、そういう部分で静謐性を補償するという意味では、非公開が望ましいかなというふうに思っております。

会 長：

他ございませんか。

それではただ今ご意見いただきましたが、静謐な審議環境確保という観点から、本協議会を非公開とすることについて、ご異議はありませんか。

非公開に賛成の方の挙手を願います。

(全員挙手)

それでは、本協議会は非公開とすることとさせていただきます。

恐れ入りますが、傍聴の方はご退席をお願いします。

(傍聴人、退席)

会 長:

それでは、本日の流れについて事務局よりお願いします。

事務局:

資料配布と確認

本日の流れについての説明

会 長:

それでは本日の協議事項についてご説明いたします。

まず来年度から使用する中学校各教科及び特別支援学級の教科用図書についてご協議をお願いします。

調査委員会の代表の校長先生等から、調査報告書をもとに説明をいただき、その後、教科用図書の選定協議をお願いします。

本採択協議会での選定結果をもとにした、各市町教育委員会の決定をもって、最終採択いたします。

なお、採択本につきましては、これまでに閲覧していただいていると存じますが、座席に1、2名でご覧いただけるよう準備をさせていただきましたので、ご活用ください。

採択の協議をいただく特別支援学級用は、担当管理職から紹介があり、その後、こちらに採択替えとなる図書を準備させていただきますので、必要に応じてご覧いただきたいと思います。

なお、社会科の「学び舎」の教科書は、発行者からの見本本の送付はなく、今回第4ブロックの4つの観点から調査をすることができなかったため、調査不能として取り扱い、机上にはございません。

<外国語科(英語)>

会 長:

それでは、来年度から使用する、英語科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いいたします。

調査員:

「外国語科(英語)」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長:

ただ今の説明について、ご質問がありましたらお願いします。

委 員:

特に、外国語・英語の方では、地球市民としての感覚とかも、学習の中で培っていく必要があると思うのですが、その中で、扱っている教育課題、例えばSDGsとか国際理解とか、いろんなものがあると思うのですが、そういうものでも東京書籍の扱っているテーマというのは、非常にバランスが取れているという調査結果ということで、考えさせていただいてよろしいでしょうか。

調査員:

はい。各社ともですね、様々テーマをバランスよく、それぞれ配置されているように思います。

調査の中で、東京書籍においては、そこにあります通り、環境、日本の伝統文化、異文化理解、国際社会、今日的課題といったものが非常にバランスよく配置されていると、非常に高評価でございましたことを報告させていただきます。

会 長：

他ございませんか。

委 員：

内容としては東京書籍の内容もわかりやすくいいなと思うのですが、1つは昨年度採択の小学校の教科書が、ニューホライズンということで、何となくその流れで、もしかしたら中学校もそうでないといけないのかなとか、そういう観点もあるのでしょうか。

調査員：

本調査では中学校の採択ということでございますので、あくまでも小学校で採択された教科書とは切り離して、委員が調査をして評価等をしております。しかしながら、小学校で東京書籍が採択されているっていうことは重々我々も知っているところですけど、別の出版社の教科書を使ったとしても、何ら問題はないと思いますが、やはり小中連携というところは非常に今、中学校の英語学習の中では強く言われていることでございますので、各社とも小学校と中学校の教科書の接続というのは非常に意識していることは事実でございます。

最終的に東京書籍が高評価となり、採択されて、小、中学校ともに、同じ教科書会社を使うという観点から見たときには、非常に小学校で扱われた語彙が3年間提示されているとか、小学校で示された内容が最初の導入で示されているといったことがございまして、調査研究の中では、同じ会社の教科書を使うことにも利点があるなということには、意見が出ておりました。

会 長：

よろしいですか。

他ご質問ございませんか。

委 員：

どの教科もですが、今、子どもたちが教科書は持って帰ってこなくて、タブレット等だけを持って帰ってきて勉強することが多いと思うのですが、教科書があって、ここに書いてある二次元コードを読み取って、補助的にデジタルコンテンツを使うのではなくて、この教科書そのままだがタブレットに入っているとか、ここの紙面がそのままだが見られるっていうコンテンツはあるのでしょうか。

調査員：

はい。今おっしゃられましたことは、いわゆるデジタル教科書、生徒用デジタル教科書と呼ばれるものでございまして、それを採用すれば、いわゆるタブレットで教室でも見られますし、持ち帰ってそれを見ることができます。

その観点も、一応教科書の採択ですので、紙面での調査を行っておりますが、デジタル教科書についても各調査員が調査をいたしまして、東京書籍のコンテンツ、いわゆる開いたときのレイアウトやそこから入っていけるコンテンツ等、いろいろな機能、すべてにおいて東京書籍が非常に高評価でございました。

会 長：

他ございませんか。

委員：

すいません。今のことにちょっと関わる内容ですが、英語が一番、デジタルっていうか二次元コード等の活用がすごく役立つ方向に行くのだろうなというふうに思いながら、教科書を見ていました。私自身も東京書籍が一番バランス取れていいかなと思って見させてもらっていたのですが、それに加えて、確かな英語力、スモールステップで、確かに英語力がつくような構成になっているなんてことも思いました。

会長：

それでは質問の方はもうよろしいですか。

それでは、これから内容の協議に入っていきたいと思います。

調査員の先生ありがとうございました。協議に入りますので、ご退席ください。

(調査員 退出)

会長：

それでは、外国語科につきまして、協議を行いたいと思います。

ご意見のある委員の方は発言をお願いします。

委員：

今お話くださったのは内容の選定ということですよ。保護者の立場から考えるときに、この大きさがやはり英語の教科書だけ違うのですが、学校の机はどうしても小さいんですよね。その中で、すごく教科書がやはり大きいというのが、特に整理が苦手な子どもにとっては。子どもたちに、何気に聞いてみたときにも大きくて、ノート、ファイル、教科書を置くのが大変っていうことも聞いていましたし、あと持ち帰るときも大きいとなかなか本当に重たいっていうこともあったので、私はこれらの教科書は大きいなあというふうには思います。

また、先程質問させていただいた通り小学校との連携というか、小中連携が密ではあると思いますので、小学校で東京書籍であるということは中学校でもそのまま引き続く方が子どもたちにとっても、思い出しますし、習ったなという意味で内容も引き継いでいると思いますので、いいのかなとは思いました。

会長：

小学校からの系統性を考えたときに同一のものがいいのではないかなというご意見でした。

他はいかがでしょうか。

委員：

はい。今おっしゃられた意見と同じようにやはり一貫性、継続性というところは重要なと思います。特にネガティブな要素がなければ、特に変える必要があるかというところはあるかなと思います。ちょっと他と比べてざっと見させてもらった形でいくと、昨年、某野球選手の通訳の方の問題があったときに、その話題が教科書に取り入れられて問題になったと。時事ネタを入れることは、生徒の興味を引くことに繋がりますが、ある意味リスクを入れることにもなりますよね。今、ニューホライズンの方を見させてもらっていますが、特に偏ったところ、特に時事ネタとして、問題が生じ

うるような、あんまりこう深いものっていうのはないのかなと思ってみましたので、特に変える必要はないなというふうに思いました。

会 長：

ありがとうございます。教科書によっては、いろいろ内容の差し替えというようなことが求められるようなこともございましたが、時事ネタというところで見たとときに、東京書籍についてはそういう可能性もないだろうということでご意見をいただきました。

他、いかがでしょうか。

委 員：

はい。教科書を見る中で、自分のときに、こういう教科書だったらもっと好きになるだろうなという感じで拝見しました。どの教科書がいいとか、そういう判断は私にはつきかねるなとか思いながらでしたけど、やはり小学校からの連携というのは大事かなと思います。

会 長：

ありがとうございます。先程から、小中の連携というところでご意見いただいているわけですが、教科書の採択につきましては、中学校の外国語科については、中学校の外国語科として行うというところがありまして、小学校の教科書に縛られるものではないということは、補足させていただきます。

委 員：

中身は全部見ましたが、私も英語が不得意なので、よくわかりませんが、ただ、一番中身的に、私が順位付けたのは、東京書籍、開隆堂、啓林館っていうふうにつけましたが、やはり気になるのは先程委員が言われた教科書のサイズですね。サイズが小さいのは光村図書と教育出版かな。ただ、中身のことを考えると、サイズの部分だけ我慢すれば、東京書籍かなというふうに思っています。

会 長：

他、よろしいですか。

それでは、ご意見も出尽くしたようですので、ただ今の協議の中では、東京書籍を推す意見がほとんどでございましたが、この場で選定したいと思います。

それでは東京書籍を選定するということでよろしいでしょうか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

それでは、外国語科につきましては、東京書籍といたします。

なお選定理由につきましては、文言を整理し、本日いただきましたご意見を踏まえて、会長に一任いただきたいと思います。それでよろしいか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

ありがとうございます。

<書写>

会 長：

それでは、続きまして来年度から使用します、書写の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「書写」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明に対しまして、ご質問がありましたらお願いします。

委 員：

書写は教科の中でも、特に独特な教科だと思うのですが、最近子どもたちが字を書くことがだんだん少なくなったと思います。書写というのは毛筆が中心かなと私はずっと思っていたのですが、硬筆もここでやっていただくと、両方の兼ね合いで、今、光村図書がいいという話でした。毛筆と硬筆のバランスということについてはいかがでしょうか、この4社。

調査員：

その辺のところは調査員会の中でも少し話題に上がっていたのですが、今言われるようにそのバランスそのものは先程説明させていただいたように、この教科書4社ともに、そう大きな差は正直ないのかなと思っています。ただ、その書きぶり、表記方法を4社とも、例えば、毛筆では、その筆使いや筆先がわかるように、赤い色を使っていたりとかいうところはあるのですが、先程ご説明しましたように、光村図書がわかりやすい形で、毛筆での使ったもの、楷書であったり行書であったり、そういったものが、別々で取り上げられているのではなく、楷書で取り上げたことが行書の中でも、行書で取り上げたことが楷書の中でも振り返ってというような感じで、表記、構成されているというようなところは、授業者にとっては、これはこれでやはり大事なポイントの1つかなということもあって、光村図書ではどうかというふうな話題になっておりました。

会 長：

他ございませんか。

私の方から1つ聞かせていただきたいのですが、子どもにとっての使いやすさについて、二次元コードのことで説明いただきましたが、他に子どもにとっての使いやすさというところで、検討いただいたことがありましたらお聞かせいただきたいと思います。

調査員：

委員の中での個人的なところなのかもしれませんが、教科書の中にいろいろな情報を詰め込みすぎるのも、逆に見づらくなるのではないかと、ということが話題になりました。そういった中で、感覚的な問題かもしれませんが、光村図書のものは、何か必要最小限の情報がすっきりした形で、要は「余白」という部分を何か大事にしている。見やすく、わかりやすくってというようなところが1つのポイントとして挙げているってようなことが、逆に子どもたちにとっても、何に目を向ければいいのかわかりやすい。特に特別支援の視点ではないのですが、あまり情報が多すぎても目移りしてしまう、ということもあって、今回、光村図書を最初開けたとき、見たときに、何か前回と違うなっていうような言葉が調査員の中からも出ていたので、かなりそこは工夫されているのかなと思

いました。

委員：

ありがとうございます。よくわかりました。

会長：

他、委員の皆さんよろしいですか。

委員：

はい。今の二次元コードに関連して、調査研究報告書のコメントを見てみると、特にその光村図書のところに、二次元コードに関する、コメントがたくさんありますけれども、その点で言っても、非常に充実しているという、そういう調査結果ということではよかったですか。

調査員：

はい。実はその通りで、書写も他の教科と同様、前回の教科書選定のときから二次元コードが入ってきています。今回の選定の中で二次元コードが一体どこまで深くなってきたのか、または進化してきているのかというところが1つのポイントかなってありまして、真っ先に調査員はこの二次元コードをその場ですぐに読み込んで、どういう構成状態になっているのか確認していました。4社それぞれが、独特の二次元コードの作成がされていて、途中停止ができたりとか、または二次元コードの動画スピード調整ができ、早く送ったりまたゆっくりしたりとか、本当にオリジナルに溢れていました。確かに光村図書は、コード数が圧倒的に多く、情報量があります。もちろんそれを使うか使わないかは指導者によって異なってくると思いますが、この動画や資料集、写真集をどう使いこなすか、使いこなせる情報量はどのくらいか、という視点はやはり切り離せないのかなと思っています。本来でしたら、他の資料集から授業者が引っ張ってきたり、または探したりしなくてはならないところですが、そういったタイムロスを、この資料1つですべてが網羅されているとも言えます。それは動画、二次元コードには特化しないのですが先程言わせていただいた一番大きなポイントかなといった「別冊資料」も、それも1つなのかなと思っています。こういったものを総合的に考えると、やはり今回はちょっと光村図書が頭一つ抜けているというように評価しました。

会長：

他、ご質問ございませんか。

委員：

二次元コードについて、初歩的な質問で申し訳ないのですが、二次元コードはどういうふうに使われるのでしょうか。先生が広げられるのでしょうか。生徒が個々に開けられるのでしょうか。

調査員：

これも授業者の指導方法に関わってくるかと思うのですが、今言われたようにどちらも対応できています。ですから、教員が指導しようと思えば多分それを大きな電子黒板なりモニターに映し出しながら、その動画を読み込んだものを、子どもたちに表示し、示すことができます。ただ、どちらかというと今はもう子どもたちが1人、1台ずつタブレットを持っていますので、そのタブレットで見ることができます。そのことを考えると、使い方としてはやはり多いのは、個々一人一人が自分で二次元コードを読み込んで、それで動画等を映し出すというパターンでの使用方法が想定されます。

委員：

ありがとうございます。硬筆をしているときならそれはいいかなと思うのですが、毛筆で墨がいつぱいある状態で、タブレットを持つというのは、またタブレットが汚れることも心配ですし、難しい環境にあるのかなと感じるのですが。

調査員：

はい。多分それは指導者によって違うのかなと思います。調査員会の中では、毛筆中の動画等を広げさせるときの利点に、右利き、左利きの話題があがりました。右利きと左利きでは全然やはりその書き順も違っており、その筆使いもやはり違ってくる。でも、どうしても一般的に右利き用の指導方法を全体指導では進めることになります。その際に、左利きの子どもたちがこの動画の中で左利き用というのがありますので、そういったものを見ながら、自分たちで確認できる良さがあります。ただ、言われるように毛筆ですので汚れることも危惧されますので、実際にそれを横に置いてになるのか、全体提示として黒板に映し出してになるのかわかりませんが、ただ、そういった左利きの子どもであったり、または特別支援を要するような子どもたちであったりとかいうような、個々に見て欲しいという子どもたちには、やはり大きなポイントなのかなという話題にはなっていました。

会長：

他でございますでしょうか。

それではないようですので、調査員の先生ありがとうございました。これから協議に移りますので、ご退席ください。

（調査員 退出）

会長：

それでは、協議に移らせていただきます。ご意見のある委員は発言をお願いします。

委員：

今のご説明いただいた中で光村図書の情報が詰め込み過ぎてないというところを聞いたときに結構スツと入ってきまして、親のエゴかもしれませんが、例えば土地の地名を書いてあれば日本地図につなげたい、歴史につなげたいって思いますが、子どもの立場からすると、確かに書道には興味はあるけれども地理には興味ない。でも、地図があるから嫌だなみたいな感じで、入口を狭めてしまうということもあるのかなと考えました。そういう観点でいうと確かにあまり情報を詰め込み、あれもこれもとせずにやはり本当に書写に特化した形で、本当にいらぬ情報を入れないということは子どもにとってはいいのかなと思いました。その観点で使いやすさで特に優れているという評価に納得できましたし、私もこの光村図書を推薦されているということには、納得できるかなと考えております。

会長：

ありがとうございます。

情報量がちょうど良いというようなことでのご意見をいただきました。

他はどうでしょうか。

委員：

やはり子どもたちは、できることならもちろんうまく書きたいし、手本のような文字が書きたいと思うものです。そういうことを考えると、やはりその手本の有り様というのはすごく大事なな思っていて、なかなか半紙の原寸大に、手本を増し刷りすることができなかった記憶もあるので、そういうことから考えると、光村図書は、原寸大の手本があって、加えていろんなフォローをする仕組みがあるということで、非常に細かなことかもしれませんが、その手本という意味でも光村図書っていうのは、理に適っているのかなという気はしております。

会長：

ありがとうございます。

手本が原寸大で、こういう形で示されているというところでの使いやすさということになるかと思えます。(実際に教科書を広げて示す)

他はいかがでしょうか。

委員：

基本的には光村でいいかなと思います。ただちょっと気にしていることなのですが、表紙に反射して、光の具合がこう、ピカピカという表示がね、すごくそれで見づらいとか、そういうことを訴える子どもが昔いたなあと思ったりして、そういう意味ではこういう、ちょっとこのざらざらしたような、そっちの方が触りやすいっていうか、ちょっとした差なのですが、そういうことも思いました。しかし、総合的に見た時にはこの書写ブックですかね。中に入っているこれがすごく決め手かなあと思いました。もう全部確認できますし、教えやすいし、学びやすいって、子ども、教師の両方にとって使いやすいと思いました。ただ、個人的にはこの表紙のつるつる感がちょっと気になりました。

会長：

ありがとうございます。他ございませんか。

委員：

はい。特徴的なところをおっしゃっていたのですが、「ぴょん」とか「トン」とかって書いてあるのが光村図書で私もそこを一番に見つけたのですが、最近の中学生は幼くて、いろんな子がクラスの中にいる中で、おそらく、文字として受け取れない子も、もしかしているのかなと思ったときに、特別支援的な支援としてすごくいいなって思いました。

会長：

ありがとうございます。他ございませんか。

委員：

私は、大人になってから、お習字をもう1回習い始めたのですが、その時に私の習っていた先生が、毛筆であっても、まず硬筆で鉛筆で文字の組み立て方とか、真ん中をそろえとか、「へん」と「つくり」のバランスとかそういうことを十分に頭に入れてから、もう一度、筆を持ちなさいと言って指導していただける方で、その上で、筆先がどこを通るかを私が書くからそれを見て覚えなさいっていうふうな指導をされる方で、幸せなことに私は長いこと続けることができたんです。それが生きていくのがこの光村図書かなと思って見せてもらっていました。

会長：

ありがとうございました。他ございませんか。

よろしいですか。

それでは、たくさんご意見いただきましたが、光村図書を推す意見が多かったように思います。

この場で選定をしたいと思います。光村図書に選定ということでよろしいでしょうか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

それでは異議ございませんので、光村図書といたします。

選定理由につきましては文言を整理し、本日いただきましたご意見を踏まえて、会長にご一任
いただきたいと思います。それでよろしいか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

ありがとうございます。

<社会科>

会 長：

それでは、来年度から使用する社会科の教科用図書について調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「社会科」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

それでは、3分野と地図がございますので、地歴、公民、地図の順番に質問がありましたらお受
けしたいと思います。

委 員：

調査員の方がこの社会科の教科書を選ぶときに、地理、歴史、公民、地図、誰か特化した方を1
人調査の中心にしたのか、全員が満遍なく4分野を調査したのか、教えていただけますか。

調査員：

大量にあるので、全部を集約することが難しいため、2人ずつ、地理・地図で2人、歴史2人、公
民2人というふうに調査をしました。その上で調査をして、途中経過を全員で共有するという形で、
1回1回の会議ごとに調査員全員で確認するという作業を毎回進めていきました。主に2人ずつで
やりましたけれども、毎回の調査開始時に必ず全員で確認するという作業で進めて参りました。

会 長：

よろしいですか。

調査の方法について他に関連質問ございませんか。

それでは、説明についての質問に移りたいと思います。

まず、地理につきまして、質問がありましたらお願いします。

委 員：

地理に関する全体的な意味合いでお尋ねしますけれども、例えば見開き1ページに、この今作られている教科書というものの情報量というのは、以前から比べると格段に増えているような気がするのですが、そのあたりは、調査員会ではどのように受けとめられていたのでしょうか。

調査員：

地理に限らず、見開き1ページが教える教員側からすると適量と考えていますので、写真プラス見開き1ページ、いわゆる3ページに渡っているものはちょっと1時間の授業では多いだろうということで、少し評価的には下げたと調査のときには感じております。しかし、委員がおっしゃるように、情報量がたくさんありますし、そこに2次元コードも入っていますので、なるべく学習にあたって、どの学力の子にも、適切に指導できるような教科書はどれかということを大前提に調査させていただきました。

会 長：

他ございませんか。

委 員：

社会科では、特に地理については、地図帳との活用との関連で、同じ教科書会社が望ましいのかな、と普通考えられると思いますが、これまでの選定の場合には、そうでない場合も、これまであったのでしょうか。

調査員：

私も社会科を教えるときはこの地図帳しか知らないです。ちょっと教科書会社は過去にどの教科書会社か確かではないですが、前回、前々回は帝国書院ということはわかっています。さらに過去まで遡ると、もしかしたら違う会社もあったのかもしれませんが、基本、帝国書院の地図帳と教科書というセットが多かったのかなと思います。

委 員：

社会科の他の分野では、違う会社の場合もありますけど、子どもの立場からしたら、同じ会社の方が活用しやすいような構成で作っているのかもしれないなと思いましたので質問しました。

会 長：

他ございませんか。

では、私から質問させていただきますけど、帝国書院の教科書と、それから地図帳との関連については何か教科書でわかるところっていうことはあるわけでしょうか。

調査員：

まず地図帳はもう2冊しかないので、どちらかを選ばなければいけませんので、どちらが子どもたちにとって一番良いかということを考えました。委員がおっしゃるように、地図帳と同じであればいいのですがそれはちょっと置いて、教科書は教科書で子どもたちにとってどれが一番良いのかなっていうことを考えて、結果的には帝国書院となって、地理の教科書と地図帳が同じという結果になっただけであって、もちろんフラットに考えた上での結果ですので、そこは分けて考えております。

会 長：

もちろん地理的分野については地理、その中での採択というふうになります。地図とは別になり

ますので、関連を考えて、採択するものではないということは、確認をしておきたいというふうに思っています。

他、地理的分野では、質問よろしいですか。

それでは、続きまして歴史的分野の方で質問がありましたらお願いします。

委員：

先程、委員も言われましたけれど、社会科の選定というのは、幅が広くて、委員の方も大変ご苦勞いただいたのだらうと推察されますが、ご存じのように歴史の教科書というのは非常に注目されている教科書でもあるのですが、調査に入る前に委員の方で、歴史の教科書について話題になったとか、そういった部分があったかなかったかで結構ですので、一言でお願いします。

調査員：

はい。当然注目度も高いというのがわかっていましたし、調査員の皆さんにも、その辺も踏まえて、丁寧に調査をするよう依頼しました。その中で、調査に入る前から他の教科書会社からも帝国書院の内容が大きく変わるということは聞いておりまして、調査員の話題の一つにもありました。帝国書院の教科書の26ページ7ページをご覧ください。この「タイムトラベル」で先程も説明させていただいたのですが、このページがやはり子どもたちにとって良いなというのがもう調査員全員が一致した意見でした。これを比較するものが他の教科書会社にはないので、これは大きな目玉というかポイントだなということで、共通認識をさせていただいた次第ですので、学習指導要領の内容も含めて、今の子どもたちにとって良いと判断しました。また、今、若い教員が増えている中で、若い教員が指導しやすい教科書はどれかなってという観点でも調査していこうということも含めて調査したので、経験のあるベテランの教員だけではなくて、これから若い先生方も一緒に子どもたちと学んでいける教科書はどれだろうということも含めて、調査した結果がこの帝国書院となりました。大きな変更ではあるのですが、この第4地区の子どもたちにとって一番いいのではないかという判断に至った次第であります。

会長：

他、歴史についてよろしいですか。

委員：

この学びに向かう力・人間性等という項目だけでも、特に何か調査研究の中で、これとこれとこれについてはとか、何かそういう、柱を立ててやっているのか、これもあれも学びに向かう力かなあということでやっているのか、そこはどうですか。

調査員：

教科書を調査するにあたって、各観点については付箋で分けて、例えば知識・技能の観点はこの値項目でここにあるなという付箋で色分けをして調査をしました。学びに向かう力・人間性等の関係についても、比較をするときに色で分けて確認をしながら各社調査をし、公平に調査するよう努めました。また、同じ単元で確認したり比較したりしていたというのが調査の方法であります。

委員：

社会科ってというのはどの分野においてもやはり議論するというか、意見交換するということの方が大事だと思うのですが、そういう意味では、歴史も、その近現代の部分はいろいろ議論しや

すい、対応しやすい。でも、時代が遡れば遡るほど、なかなか難しい部分はあると思うのですが、もう感想で結構ですので、最近の教科書としてかなり歴史のその遡った時代の部分でも、議論しやすいような工夫を各社やっているというような、そういう印象を持たれましたでしょうか。

調査員：

はい。近現代は各社力を入れていますが、ページ数が多いのは令和書籍で一番ボリュームもありました。今回選ばせていただいた帝国書院が近現代のページはボリュームがあつたのが事実です。歴史はやはり私たちが教えたことが変わっていくので、時事刻々と変わっていく中で、教科書に載っていることも場合によっては変わることもありますので、それも踏まえて、各社共通して、工夫しているなあというのは、印象としてはありました。

特に平安時代とか大分遡るのですが、平安時代で例に出させていただきますと、問いのかけ方に各社いろいろ工夫があつて、中には子どもたちの答えを誘導するとか限定するような会社もあれば、いろんな声を拾い上げるような問いを立てる会社もありましたので、その辺は各社様々な問いを工夫している様子は伺えたと、調査のときには感じておりました。

会 長：

歴史についてはよろしいですか。

委 員：

いろんな本の歴代の方の肖像画とかの、色合いとか、写真の撮り方や向きとか、それらはいろいろ違うのでしょうか。

調査員：

違います。やはり会社によって、使っている資料も違うので、その中でも大きさとか、角度とかいろいろ違いますので、それもいろいろ見た結果、どの角度とかどの写真が良いかなっていうのも全部が全部、ある1社が良いってわけではありませんが、この写真を使っているのは、または会社によっては、この人は使っているけれどもこれは使っていないということもあるので、それはやはり比較してチェックもしました。委員がおっしゃるように、色合いとか、鮮明さとか、もう各社様々でしたので、我々がイメージしている、例えば織田信長であっても、各社でまちまちですし、それはもう各社の特徴として、工夫されているなというふうには見ておりました。

会 長：

他、よろしいですか。

それでは、続いて公民的分野の方にいきたいと思います。

よろしいですか。

それでは、地図帳の方について質問ございますか。

委 員：

地図帳の方で帝国書院を押されていますが、私は個人的に、今後地図帳は教科書としてはもうなくなるのではないかと、いうふうに思っています。というのは、子どもたちはタブレットを持っているので、タブレットで調べた方が絶対早い、かといって、私は地図帳で一番プラスになるというのはやはり統計ですよ。世界あるいは日本の色々な統計の部分は地図帳にかえるのが一番かなと思っています。そういう部分で考えると、私はやはり統計的な部分がたくさん載っている方が、

ありがたいなと思います。その辺りのタブレットと地図帳との兼ね合いについて調査員会では話は出ていましたか。

調査員：

委員がおっしゃるように、調査の中でも、本当にこれからどうなっていくのだろうという話は出ておりました。ただ、統計資料も、委員がおっしゃるように、主に使うページとしましては、例えば日本の帝国書院でしたら181ページに、統計資料日本の統計書が載っています。帝国書院の方が比較的データが新しいですし、見やすさという面でもこちらが良いかなと思いました。あと、デジタルの二次元コードにとぶと動画が見られます。中には、例えばアフリカの様子とか、そういうものはやはり地図帳の平面では見られない部分がございますので、今は地図帳というのを選んではおりますけれども、このタブレットが普及して、動画が流れたり、先程申し上げましたがランキングが項目で変えたりできるというのは、子どもたちにとっては非常に使いやすく、興味関心が湧くのではないかなと思います。そのあたりを含めて、今後の地図帳にかかる調査はどうなのかなというのは話題にあがりました。けれども、やはりこの体感するっていうのはやはり、タブレットでもいいのですが、こういう紙媒体で見た方がより子どもたちには理解が深まるのかなと思いますので、今後どうなるかわかりませんが、今現在では、特にこの滋賀県の琵琶湖が、位置的にたくさん載っている部分も確認しながら、よりよい方を確実にというふうに考え選択しました。調査員の中の話では、子どもたちにとっては、まだまだこの地図帳の利用頻度というのは高いなど、現場の教員は感じているということです。

会 長：

他はよろしいですか。

ありがとうございました。これから協議に入りますのでご退席ください。

(調査員 退出)

会 長：

それでは、まず地理的分野から協議を行いたいと思います。

ご意見がある委員は発言をお願いします。

委 員：

地理の教科書ですが、やはり地図帳との兼ね合いが大きいかなと思ってずっと見ていたのですが、地図帳がやはり帝国がずっと見慣れており、大変見やすいです。これを考えると地理は帝国書院でいいかなというふうに思います。

会 長：

他はどうでしょうか。

委 員：

最近全国の学力学習状況調査の問題とか見ても、その資料をどう活用してどう読み読み取るかみたいな問題がかなり出てきます。そこで、やはり、中学校でもいろんな資料とかそういうものから、議論をしたり、意見交換したりという場面がどうしても重要になってくると思うのですが、そういう意味では、帝国書院の方はそういう工夫もされているということを先程おっしゃっていま

した。また、地図帳との関連で好都合なところがたくさんあるかなと思うので、帝国書院でいいのではないかなというふうに思っております。

会 長：

他ご意見ございませんか。

委 員：

地理に関しては地図と同じところで帝国書院でいいなと思います。帝国書院の地理の教科書に載っている漫画で描かれた子どもたちが、また後で話になると思うのですが、歴史の教科書でタイムトラベルする子どもたちなんですよ。そうすると、この地図を帝国書院に決めました。だから地理の教科書も帝国書院にしましょう。今度、歴史もここに関連している子どもたちが一緒なので歴史も帝国書院にしましょうみたいな感じになっていいのか悪いのか、私にはわからなくて。子どもたちからすると、社会の分野は分かれているけど、社会の教科書に出てくるキャラクターがちょいちょい出てきて、これはこうなんだねとかこれはどういうことなんだろうって言っている。この子どもたちがバラバラになると子どもの的にはややこしいのか、そうするともう社会は一貫して帝国書院になっちゃうのか、その辺はどうなのかなってちょっと気になりました。

会 長：

キャラクターについてですけれども、まず最近の教科書の作りとしては、こういう子どもたちを登場させて会話しながら学習を進めていく、そういう形でキャラクターが登場することが多くなっているのではないかなというふうに思います。他教科の中でもそういうキャラクターが使われておりますので、子どもたちの中では大きな混乱はないのかなというふうには考えます。それから、社会科分野、地図がございしますけれども、同じ社のものをということではなくて、あくまで分野ごとに教科書を選定するということになりますので、関連する資料等考えますと、同じ教科書会社でというご意見もあるかとは思いますが、あくまで分野別に選定をするということになりますので、そこは確認をさせていただきたいと思います。

委 員：

質問ですが、3分野っていうのは、学年で決まっているのでしょうか。公民が3年生ですかね、主に、地理と歴史っていうのが1年生でしているということによろしかったでしょうか。

会 長：

1年生で地理・歴史それから3年で公民というのがどの学校でも一応、基本的なカリキュラムかなというふうには思います。

委 員：

そうすると、キャラクターとか結構大事かもしれないかなと思いました。学期によっては、例えば来週歴史の教科書持ってきてねということもあると思うので、そうすると統一感があると、もしかしたら子どもたちにはわかりやすいのかもしれないし、今回、確か歴史も帝国書院でしたね。

委 員：

結論としては、地図との関連性で帝国書院ということで特に異議があるわけではないのですが、個人的に私は大学受験の社会の指導をしていたのですが、その時の高校生の知識、地理の知識レベルからすると、中学校の教科書でここまでデータを落とし込んで、これをどの程度の子が理解

できているんだろうなということを少し心配しています。帝国書院が最もデータ等を詰め込んでいるように思うのですが、わかる子はいいいのですが、どこの層をターゲットにするかで真ん中というか、中間層にするのであればもっとシンプルな他の教科書という選択肢も、その地図との関連性というところを除けば、選択肢としてはありではないかと思いました。

会 長：

はい、ありがとうございます。

授業の組み立てというところで、その子どもたちの状況に応じた指導をしていくことになると思いますので、教科書とはちょっとまた指導というところで、別になるかもしれません。

他よろしいですか。

委 員：

歴史に関して言うと、テレビドラマで、その時の主人公がいい人のようにドラマ的に、その人を中心に作られたものを子どもたちが見るがあります。本当はもっと違う面もあるよ、もっと残酷な面もあるよ、そういうことが、授業の中で、その子がテレビで見てきたこと以外のことがいろいろ知れるような、先程もおっしゃっていたように、討論されるような場面がたくさん出てくると、子どもたちは豊富に、その人物のことが知れて、また歴史の背景も知れるのかなど。偏った思い込みのないような授業が展開されるといいなと感じました。

会 長：

ありがとうございます。

それでは、まず地理についてですね、選定をしていきたいと思います。

今、ご意見の中では、地理については帝国書院を推薦する意見が多かったわけですが、帝国書院に選定するというところでよろしいでしょうか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

それでは、地理的分野については、帝国書院といたします。

続いて歴史的分野につきまして、ご意見をお願いしたいと思います。

委 員：

歴史とか公民で先生が一番政治思想とかも絡んでくると一緒に悩まれるところの評価だと思っています。そこは現場の先生方に見ていただいて、教えやすいという評価をされるものを中心に選んでいただくのがいいのかなと思っています。

その限りでいうと今回の調査結果で出していただいたものですね、これを踏まえた結論で良いのかなというのが意見になります。

会 長：

ありがとうございます。

教えやすい教科書というところでご意見をいただきました。

委 員：

先程調査員の先生は、歴史も帝国書院っておっしゃっていたと思いますが、すごく悩みました。

というのは、東京書籍も結構課題解決的な学びのために考えられているような部分が多いなあと
思ったり、それから、私が高校生のとき山川出版で学習した記憶があるのですが、これも結構考
えられているな、教科書会社によっては、同じ事件でも表記が違う箇所が見受けられ、自分自身
が勉強になりました。けれども、先程お話があったように、教える立場の先生が子どもたちが多面
的にとらえられるようにどう提示していくか、というあたりが大事だと考えますので、いろいろ悩み
ますが帝国書院でいいと思います。

会 長：

ありがとうございます。他、どうでしょうか。

委 員：

先程説明がありましたように、帝国書院の26、27ページの弥生文化と縄文時代の、そこら辺が
新しい若い先生にとって非常に授業に入りやすいというような説明だったので、私もちょっとそこ
は評価したいなということを思いますので、帝国書院でいいのではないかと思います。

会 長：

「タイムトラベル」というところで、教員が教えやすくなっているのではないかということがありま
したが、そのことについてご意見をいただきました。

他よろしいでしょうか。

委 員：

小学校の多くの保護者が子どもに見て欲しいなと思っているシリーズものの漫画等は、大体タ
イムトラベルの体裁をとっています。だから、タイムトラベルものは子どもたちにはすごく馴染み
があると思います。また、思い返すと、私自身が歴史を勉強するときに板書ではなくて先生の雑談を
とにかくノートに書くから面白くて覚えるということがありました。その雑談のような内容が、この
帝国書院にはたくさん書いてあって、この「歴史プラス」っていう、どのページにも記載されていま
すが、これが書いてあると多分先生たちのスキルによってその雑談が面白い面白くないとか、内
容が濃い、または教科書通りに沿って進めていく先生もいらっしゃる中、これがあるとの先生で
もこの話には触れられる。雑談をこの教科書からできるっていうことから、すごく先生もやりやす
いのではないかと思います。

会 長：

ありがとうございます。

説明の中でも、若い教員も教えやすいというようなことも、帝国書院についてはあったかと思
います。

他よろしいですか。

それでは、歴史的分野について、帝国書院を推す意見が多かったわけですが、この場で
選定をしたいと思います。

歴史的分野について、帝国書院を選定するということでよろしいか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

それでは異議ないようですので、歴史につきまして、帝国書院といたします。

続いて公民的分野についてご意見をいただきたいと思います。

いかがでしょうか。

委員：

公民的分野は、本当に今を生きる、自分たちがどういうふうにかえ、そして行動するかというあたりと直結してくると思いますので、まずやはり、自分ならどうするかということをしっかり考える機会が、この学習であることが大事だと思うので、主権者教育とか、今、非常に重要視されていますけれども、全体的なバランス見て、いろんな工夫がされていることからすると、日本文教のものがバランス的にいいのかなという気がしております。

会長：

ありがとうございます。

総合的に見て、日本文教がということですね。

他、どうでしょうか。

委員：

公民的分野の教科書は、生活していく中で必要なことが最も書かれている教科書だと思います。1つ1つ、私も拝見して、私自身が考えなければならないことがあるなということに気づかせてもらった、その中でも一番日本文教出版の教科書がその機会が多かったと思います。これまで私が習ってきた教科書にはなかった大切な事柄が豊富に記載されており、やはり時代に即した勉強の方法があるのだと改めて読ませてもらいました。

会長：

自分で考えてみようというふうなことに繋がっていくような、そんな教科書ではないかなということですね。

他、いかがでしょうか。

委員：

今も、おっしゃっていましたが、公民ってやはり自分の生活に密着してこれからを生きる子どもたちにすごく影響あるなという思いをしています。その中でわかりやすく説明されている。特にこの報告書の中にもありますけれども、欄外にわかりやすい資料や写真が載せられているというのは、この通りかなと思いますので、私はこの日本文教でいいなと思います。

会長：

わかりやすさということで日本文教がいいのではないかなというご意見でした。

他ございませんか。

それでは、公民的分野につきましては、日本文教出版を推す意見が多かったわけですが、この場で選定をしたいと思います。

公民的分野については、日本文教出版を選定するというところでよろしいでしょうか。

委員：

(異議なし)

会長：

異議がないようですので、公民的分野については日本文教出版に選定いたします。

それでは最後になりますけれども、地図についてご意見を、お聞かせいただきたいと思います。

委員：

2社しかないということと、先程から地理の教科書との関連性ということと、あと報告書自体が圧倒的に、やはり帝国書院の方がいいという報告結果でしたので、その通りでいいのかなと思います。

会長：

帝国書院でいいのではないかなというご意見です。

他にどうでしょうか。

委員：

私も今、2社ですので見比べてもデータのものが豊富なのがやはり帝国書院かなということをお思いますので、帝国書院でいいかなと思います。

会長：

豊富なデータという観点でご意見いただきました。

他いかがですか。

委員：

本当に、特にどちらかがよく、どちらか悪いとはなかなか言いにくいところには正直になりますので、これまでと本当に使用された一貫性とか含めて特に変える必要はないという帝国書院の方で問題はないのかなというふうに思います。

会長：

他にございませんか。

それでは、帝国書院を推す意見が多かったわけですが、選定をし、させていただきたいとします。

地図については、帝国書院を選定するということでよろしいでしょうか。

委員：

(異議なし)

会長：

それでは、異議ないようですので、地図につきましては、帝国書院といたします。

社会科につきましても選定理由については、文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきたいと思います。それでよろしいか。

委員：

(異議なし)

会長：

ありがとうございます。

それでは、ここで休憩に入らせていただきたいと思います。

<道徳>

会 長：

それでは、再開をさせていただきます。

では、来年度から使用します、道徳科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「道徳」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明につきまして、ご質問があればお願いします。

委 員：

道徳の教科書ということで教科化になってから大分久しく経つのですが、なかなかその価値観というのはなかなか子どもたちに難しい教材であるかなと思います。その中で、どの教科書も、思考力・判断力・表現力等について、特に優れている、あるいは優れているとしているというのは、どの教科書も、すばらしいというか、よかったという感想を持ちました。

そんな中で、例えば知識及び技能というのは、道徳とどこまで直結するのか価値感と直結するのかという点は少し疑問に思うところもあるのですが、道徳における知識及び技能で評価されて、特に優れているとされた経緯的なものをもし覚えておられたら、お願いできないでしょうか。

調査員：

私どもも、委員と同じような考え方でして、他にも私と一緒に調査をしたものがあるのですが、どの教科書も本当に、この何年間で、ものすごく教材を研究されて、読み応えのある教材を増やしてこられたなということが、我々の感想でした。その中で、なぜあかつき教育図書なのかということについては、「Thinking」というところがあるのですが、例えば、いじめとどう向き合っていくか、について1年生の教科書36ページを見ていただきますと、同じいじめを扱っていても、パッと見たときに、何を勉強するのかというところが難しくとらえてないながらも、4重構造がしっかりと書いてあったりとか、パッと見て見やすくなっていたりします。それから、実はその前に「マイプラス」というのがありまして、しっかりと話し合ってみましょうというところがついています。他の教材は一遍にこれを書いてあったりかしてあるので、先に答えがわかってしまうので、しっかりと見て、いい勉強ができるところがこの知識・理解と関わって良かったと分析しています。このいじめの構造の図が大変わかりやすいなあとということをポイントとしました。もう1つ「魚の涙」という教材も各社掲載してまして、あかつき教育図書ではこのページ1枚で「魚の涙」を表現してあることが特徴的でした。他社は、4、5ページほどで表現してあるのですが、こういうところを見ると、これを読んでパッと見て、繋がりがすごく教材的にはわかりやすくなっており、さらに「Thinking」でとてもわかりやすく深めてくれます。それ以外でも「Thinking」は様々な題材を取り扱っているところが、このあかつき教育図書の良いところとして、漫画のワンピースであったり、伝統工芸であったりと、様々な分野に対応しています。他社と比べて、その題材の扱い方に差があったな、というのが調査員の総意でした。加えて、ありがたいなと思った箇所は、2年生の49ページにありますスマートフォンのチェックについて、ワークシート等を用意しなくても教科書に含まれていたのは、このあかつき教育図書だけでして、現代的な課題として扱ってくれていることも他社と比べて抜けていたかなという印象でした。

会 長：

他、ご質問ございませんか。

委 員：

この道德の調査も大変だっただろうと思うのですが、取り上げられている教材が、その値打ちがあるのかとか、あるいは本当に自ら振り返ったり、これからの課題や目標を見つけたりというふうに、誘ってくれる教材なのか、その辺りの判断が非常に難しいところだろうと思います。もう1点外側の話として、あまり文章がありすぎると、生徒がますます道德嫌いになることを危惧しています。教材の内容を読み込めないと書いている意味がわからない、中身に入っていけない。その点で、私は、この道德ってハードルが高いなと思っています。そういう文章の、文字の量について、調査員の皆さんから意見は出ていたのでしょうか。

調査員：

担任をしている調査員から聞きますと、一番わかりやすい例として「裏庭のできごと」という1年生の教材がありますが、あかつき教育図書では38ページ、東京書籍では94ページになります。ご指摘の分かりやすさという点において、同じ教材なのに、どちらが見やすいかというと、同じ文章量なのに、あかつき教育図書はコンパクトにうまくまとめているので、総ページ数が2ページのため1枚めくるだけで終わりなのですが、一方で東京書籍は、最後まで、もう1回めくる必要があると、同じ教材なのに長く感じさせるところ、その辺があかつき教育図書が工夫されており、加えて他の題材においても、字の大きさや配列が工夫されているというのが、担任である調査員の意見でした。文章量については、総じてできれば2ページぐらいで読み終わらせたい。もちろん、じっくり読ませないといけない題材は、例えば94ページにある「銀色のシャープペンシル」という題材では、長くしっかりと書いてあるものもあるので、文章量について強弱をつけた工夫をされているというのも、強みの1つかなと思っています。

委 員：

道德は、観点Cの人間性を育てていくということが大切だと考えますが、多くの教科書が「概ね満足」という評価だけれども、「優れている」との差はどういうところだったのかと思うので教えてもらえますか。

調査員：

どの教科書も人間性について掲載されていますが、優れているとした3社は、子どもたちが学びに向かって行けるように段階を踏んで進める工夫が見られました。具体的には、例えば教育出版ですと、題材の1つ1つの後ろに「道しるべ」という形で子どもたちを深い学びへ誘っています。光村図書では14ページにありますように、「考えよう」から「見方を変えてつなげよう」というようにうまく連動していった、子どもたちが学びに向かえるように、質問を投げかけているところで他社とは差があるなど、調査員からは意見が出ていました。つなぐ、深くどんどんとつなげていけるということで、この3社、あかつき教育図書、東京書籍、光村図書が同じような題材でも差があると結論づけましたが、中身的に大きな差は見られませんでした。

委 員：

そんなに差はないということですね。

調査員：

そうですね、教材の内容的には大きく差はないのですが、その深めていく力をつける点で違いが見られました。

委員：

結論としては、人間性を育むという観点では、そういうところはそんなには変わらないということですね。

調査員：

中身的にはどの教科書もすごく良いものが多いなという印象があります。どう進めていくかというところに差がついたので、この3社が進めやすいかなということで、調査員の評価がよかったという結果になりました。

会長：

他ございませんか。

委員：

いろんな観点等あって、最後は子どもにとっての使いやすさですけれども、全体的にあかつき教育図書が選ばれたのは、先生方も扱いやすいし、授業しやすいっていう感覚で捉えてもいいですか。私も担任していたこともありますし、教科関係なく、やらなければいけない教科ということで、先生方の苦手意識にも繋がりますし、それが大きいと、子どもたちにも直結するというのが感想です。全部見ていただいて、先生方が使いやすい、扱いやすい。そして、子どもたちにも、わかりやすいのがいいなと思うのですが、それがあかつき教育図書と考えてよろしいでしょうか。

調査員：

そうですね。最初の表紙にある目次から、1年生ばかりで申し訳ないですが、目次から、次のページにキーワードがあって、どんなテーマで進めているかということが本当に端的に書いてあって、ものすごくやりやすい、そして、先程言いましたようにレイアウトに工夫があり、字のフォントや大きさが見やすいものです。あかつき教育図書がいいという話が調査員からも多かったです。

会社名は言えないですけれども、奇を衒い過ぎたものや漫画を多く取り入れすぎたものは、どの先生でも扱えるかという、しんどいなという話が出ていました。もう1つ、一生懸命教材を工夫されたことが、され過ぎたばかりに逆にぱっと見たときにわかりにくくなっている場面もありました。また、導き方についても、わかりづらさを感じるものもありましたので、トータルすると、あかつき教育図書が普通で、端的に見やすいかなというところで結論づけました。

会長：

他よろしいですか。

委員：

道徳の授業っていうのは中学生は1週間に何時間とか、どれくらいの頻度で。

調査員：

基本は1週間に1回です。

委員：

この教科書は1年で取り敢えずは全部行くということですね。

調査員：

そうですね。基本はそういうことで、行事等で色々ありますが、道徳の時間は大体学年で一斉にやるので、教材的に、今回はこのタイミングでこれをやろうかとか、年間通してこうやって行こうとか、基本的に計画に沿っていくのですが、臨機応変にやることもあります。ある学校では、道徳を学年担当全員でローテーションして順番に5クラスあったら、同じ教材を1人の教員が行うなど、工夫してされている学校もあるのが今の道徳の授業の現状です。

会 長：

他ございませんか。

調査員の先生ありがとうございました。これから協議に移りますのでご退席ください。

(調査員 退出)

会 長：

それでは、協議に移らせていただきます。

ご意見のある委員は発言をお願いします。

委 員：

教科書の採択上でどうこうというわけではないですが、道徳が教科化になるときに課題として上がったと思いますが、あかつき教育図書に限らず、道徳の教科書そのものが、最初から、この教材はこの観点ですよというところがはっきりされていますよね。子どもによっては、それを元に答えていったらいい。これはもう自分自身に関わることだから自分自身のこととして答えていけばいい。あるいは、集団や社会との関わりに関する教材であるから、それをもとに答えていけばいい。私は、ちょっと違うのではないかと考えています。これは採択協議会で協議してどうこうというものではないですが、やはりいろいろな価値感を認めていこう、また多様性を尊重していくということであれば、やはり教科書そのものの表記の仕方が各会社にもよると思いますが、見渡すと、最初からその教材の価値観が植えつけられて学習に入っていくのはあまりにもゴールを見て、生徒に発言しなさい、書きなさいという意図を感じるので、それは今後、我々採択協議会として機会があれば、意見として伝えていくことも必要だと思いました。

会 長：

はい。ありがとうございます。

委 員：

結論は、あかつき教育図書がいいと思いました。他社と比べてみても、ユニバーサルフォントで見やすく、目次だけでも比べたら、すごく学び手に優しいというか読み手に優しいと思います。それから、1つの価値を書いています、いろんな子どもたちの意見が引き出しやすいような問いかけなど、そういう構成になっているなと感じました。

会 長：

他はどうでしょうか。

委 員：

どの教科書もテーマに沿ってまとまっていて甲乙つけがたいなと思いましたが、調査員の方が

言ったように、パッと見てわかりやすい配列になっているという点で、教科書として考えるならあかつき教育図書が一番いいかなとは思っています。中身については、先程委員が話されたようなことも今後考えていく必要があるなと思いました。

会 長：

教科書を使うということは、一定、年間を通して、1週間に1時間ですけれども、35週35時間を道徳の時間として確保するということもあって、教科書を使うというような意味合いもあるというふうに思います。ただ、教科書で教えるのではなくて、生徒が議論し合って、様々な価値に触れて、自分の生き方を考えていくというようなことが道徳の時間であるというふうには思いますので、必ずしも教科書に縛られるものではないのかなとは思っています。

従って委員がおっしゃったように教科書以外のものも使いながら、子どもたちが学んでいくというようなことが大事なのかなというふうに思いました。

委 員：

調査員からのご説明通り、やはり長い、もうパッと見て、この話長いってなった瞬間に子どもたちでもう読む気がなくなるとか、あると思うので、コンパクトにまとまっているというのはすごく、子どもたちに負担なく授業が進められるのではないかなと思って、とてもあかつき教育図書はいいなと思いました。

会 長：

ありがとうございます。子どもにとっての学びやすさというところで、ご意見いただきました。

それでは、質問から含めますと、いろいろな意見を言っていただきましたので、ここで選定をするということでしょうか。

それでは、道徳につきましては、あかつき教育図書に選定するというでしょうか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

それでは異議がないようですので、道徳につきましては、あかつき教育図書といたします。

選定理由につきましては文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきたいと思います。それでよろしいですか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

ありがとうございます。

<音楽科>

会 長：

それでは、来年度から使用します、音楽科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「音楽科」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明につきまして、ご質問があればお願いします。

よろしいですか。

それでは、調査員の先生、ありがとうございます。これから協議に移りますので、ご退席ください。

(調査員 退出)

会 長：

それでは、協議に移りたいと思います。

ご意見のある委員は発言をお願いします。

委 員：

音楽の中身の話ではないのですが、こちらの教育芸術社の方は1年生の段階で、その何ていうか音楽の権利性というかですね、YouTubeとかで、簡単にただで手に入るものだという理解を子ども達がしていることが多いと思うのですが、そこはしっかりと権利があるんだということも1年生の中で明記されていて、そこにすごく好感を持ったというところがあります。

会 長：

その著作権ですね。そういうことについてもしっかりと触れられているというところが大事ではないかなということです。

他はどうでしょうか。

委 員：

教科書会社によって取り扱っている楽曲の数が違ったような気がして気になりました。ただ、教育芸術社の方が、先程説明してくださったように、「マイボイス」や音楽を形づくる要素のことについて工夫されており、なるほどと納得して聞いていました。

会 長：

ありがとうございます。

他、どうでしょうか。

委 員：

私も教育芸術社の方がいいと思うのですが、やはり音楽ですので、楽しみやすかったり、あるいは親しみやすかったりということで、2次元コードについても、こちら教科書ではいろいろ散りばめられていると感じましたので、教育芸術社の方がいいかなと思います。

会 長：

ありがとうございます。

他、ございませんか。

委 員：

音楽はやはり楽しむものなので、私が中学生の頃、先生とともに楽しく鑑賞の学習をしていましたが、昔からある馴染みのある曲であれば、それがどういう意味なのかっていうことがわかり易い

ので、外国の馴染みのない曲を聴くよりも、身近な曲に触れさせてもらう方がありがたいです。その点、圧倒的に教育芸術社の方が、優れているという調査結果ですので、それがいいのかなと思います。

会 長：

他、ご意見ございませんか。

委 員：

私も音楽は、ちょっとほっとする時間でもありましたし、自分にとって、音楽好きな子も苦手な子もいるとは思いますが、表紙も明るいし、両方善し悪しありますけど、中身に関しては、音楽科の先生方が調査してくださった通り、評価の高い方で、異存ないです。

会 長：

他ございませんか。

はい。それでは、教育芸術社を推す意見が多かったように思いますが、この場で選定をしたいと思います。

音楽科につきましては、教育芸術社、に選定するという事でよろしいですか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

異議ないようですので、音楽科につきましては教育芸術社といたします。

選定理由につきましては文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきますと思いますが、それでよろしいですか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

ありがとうございます。

<技術・家庭科(技術分野)>

会 長：

それでは、来年度から使用する技術科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「技術・家庭科(技術分野)」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今説明いただきましたことにつきまして、ご質問がある委員をお願いします。

委 員：

1点だけ質問ですが、東京書籍と開隆堂がよく似ていたと思っています。報告の中では、学びに向かう力・人間性、子どもにとっての使いやすさが、東京書籍の方が特に優れているということになっていますが、どちらでも結構ですけど、決定的なところがもしあれば、記憶されていたら教え

ていただけたらと思います。

調査員：

承知しました。まず決定的と申しますと、東京書籍はワークシートが各章の最後ついております。各章のまとめ、各領域のまとめについては3社それぞれの教科書についていますが、特に東京書籍については、まとめだけでなく、ワークシートが用意されております。このワークシートによって、自己評価、あるいは管理運用する力、改良、応用する力を深められる、強いては学習を促すものになっている点で評価しております。加えて、先程申し上げましたが、二次元コードが東京書籍は非常にわかりやすく配置されていますので、その意味においても、子どもたちがタブレットを家に持ち帰って学習できるということで東京書籍を第一に挙げております。

会 長：

ありがとうございます。

他ご質問よろしいですか。

それでは、調査員の先生ありがとうございました。

これから協議に移りますので、ご退席ください。

(調査員 退出)

会 長：

それでは、協議に入らせていただきます。

ご意見のある委員は発言をお願いします。

委 員：

教科書会社が3社あるのですが、私自身が拝見したときに、開隆堂と東京書籍と迷いました。今、話を聞いて技術の専門家として扱いやすいのは東京書籍という話でありましたし、二次元コードを見ても、子どもたちにとって使いやすいということだったので、調査員の結果通り東京書籍でいいと思います。

会 長：

使いやすさ、教えやすさというところで、東京書籍が良いのではないかなということでした。

他はどうでしょうか。

委 員：

調査研究の結果として非常に東京書籍の評価が高いですし、私も東京書籍の方がバランスがいいと思います。

会 長：

調査研究結果から、東京書籍がいいのではないかなということでした。

他はいかがでしょうか。

委 員：

私も技術的なこと全然わからないのですが、やはり英語とか国語に比べて、やはり技術って現実、現物を見てどうかというところが大きいと思いますので、観点で先程調査員がおっしゃったように、その火力発電のところでも、実際のその火力発電設備とあとはコンピューターの電子音声

ではなくて人の言葉で入っているという点ですよ。そういう配慮がある方がスッと入ってくると思いますので、私もこの東京書籍で問題ないと考えます。

会 長：

ありがとうございます。

他にございませんか。

それでは、ご意見の中では東京書籍を推す意見が多かったように思います。この場で選定をしたいと思います。

技術・家庭科の技術分野につきましては、東京書籍に選定するという事でよろしいですか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

異議ないようですので、技術分野につきましては東京書籍といたします。

選定理由につきましては文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきますと思いますが、それでよろしいですか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

ありがとうございます。

それでは、大変長時間にわたりまして熱心にご審議いただきましてありがとうございます。

午前の部はこれで終了といたします。

<特別支援学級>

会 長：

それでは、今回採択替えされた特別支援学級の一般図書について、調査員の代表から説明していただきます。よろしくお願いします。

調査員：

「特別支援」の一般図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明につきまして、ご質問があればお願いします。

委 員：

説明ありがとうございました。今見せてもらった中での「遊べる工作大図鑑」、見せてもらった限り大分古そうに思ったのですが、そういったことで何か意見はなかったのでしょうか。厚さもありますし、いかがでしょうか。

会 長：

今、委員が、見ていただいているものですね。平成25年ですか。

調査員：

一応この「工作図鑑」の見直しを図るということで、検討させてもらったところ、現在採択されて

いるこちらの図書が1988年3月15日発行ということでして、これと同等のようなもので、ふさわしいものを見つけるということで、調査員の先生方もかなり苦勞していただいたのですが、それが相応しいであろうということで、選ばせていただいたということです。

委員：

本当に一般図書の方を候補としてチェックしていただくというのは、本当に大変なことだろうと思うのですが、実際に先程の、最初の方のご説明の中で、ジェンダーとか、あるいはその他、人権の視点、あるいはその色合いのこととかで、ということでしたけれども、これはもう不適切だというのは、特にはなかったということでしょうか。

調査員：

不適切ということではないのですが、子どもたちに誤解を与えるというか、女の子はスカート、男の子はズボン、または肌の色が同じということではなくて、様々な人権感覚を養っていく上では、多様性を認められるようなものを選んでいくことが大事だということで、より良いものを選んでいくという視点で調査研究をさせていただきました。

委員：

本当にこれは調査の中で難しいところですけど、本当にどういうものを子どもたちに見てもらわかっていうのは、逆に無意識の偏見とか、今アンコンシャスバイアスって言われますが、そういうものを逆に植え付けてしまうことになるので、これからもチェックが必要ですし、実際に使用する段にあたって、もう一度特に古いようなものについては、現場の先生方が、ここちょっと篩に掛けていただく。ちょっとこれは、控えておこうかなというのもありかなと思います。

会長：

他ごぎいますか。

よろしいでしょうか。

それでは、調査員の先生ありがとうございました。これから協議に入りますので、退出をお願いします。

（調査員 退出）

会長：

今、見本本を回していただいていますので、回し切っていただくまでもう少し時間を取ります。

それでは、皆さん見ていただきましたでしょうか。

途中のものもあるかもしれませんが、それでは、先程ご説明いただきましたように、今回選定する一般図書は、小学校で3冊、中学校で4冊の7冊になります。

この7冊につきまして、ご意見をお願いします。

委員：

中学校の、体の仕組みとケアの絵本は、ちょっとあまりにも古すぎて、表紙の絵自体が体重測定しているのが上半身裸でみんな並んでいるので、今ではもうみんな体操服を着て測定をしていますし、ちょっと古いかなと思います。

会長：

今回、時代に合っていないものがないかという観点で、採択替えということになりましたので、ちょっとそういう点からするとどうかなというご意見でした。

委員：

今、見本本として回っている歴史分野の一般図書ですが、最後の方に、令和の時代のものが少し掲載されていまして、例えばスカイツリーですね。その前に、確か昭和39年に開催された東京オリンピックが載っています。しかし、今の子どもが考えるオリンピックは2回目の、一昨年開催のものでして、その東京オリンピックをイメージしてしまうと思います。加えて今、パリオリンピックをやっているので、例えばあと2年ほど待てば、次の版が出ると考えると、今回、歴史的にこれを採択するのは大丈夫かなと思いました。

会長：

他はどうでしょうか。

特別支援学級の一般図書については、毎年採択をします。ですから、こういうところが少し問題があるということで、例えば1年使用して、また選定するということも含めて考えていかないとなかなか一般図書なので代わるものが見つけにくいというところがあります。県で研究もされた中から選んでおられますので、それに代わるものがあるかどうかというところは、少し難しさがあるというふうに思います。

ただ、先程の見直しの視点のところ、ジェンダーの問題、また時代にマッチしているかというところを踏まえての、今回の採択替えということですので、そういうことからすると、まだ少し課題はあるかなというところだと思います。

委員：

一般図書から選ぶということについて、非常に調査員も苦勞していただいているのはわかるのですが、これ特別支援学級用ということですけど、その調査員の方に、例えばこの保健の関係だと、養護教諭の先生が、県の方では入っているのか、あるいは美術も、特別支援学級の担任の先生が調査されたことなのか、それとも図工、技術の担当の先生が調査に入っておられたのかその辺りはどうでしょうか。

会長：

事務局わかりますか。

第4ブロックについて、わかったらお願いします。

事務局：

県の方はわかりかねますが、第4ブロックにつきましては、まず養護教諭の先生は入っておられません。特別支援学級につきましては小学校の教員についてはどの教科も指導しているという部分で言えば、広く教科には関わっていますが、中学校の調査員の選定については、特別支援学級の経験については考慮していますが、専門教科について特に考慮はしておりません。

委員：

なぜかという先程もありましたが、こういう図書の選定にあたっての今のジェンダーとか、その辺全部考えていくと養護教諭の先生の方が資料等も持っておられるので、参考になると思います。そうすると、新しい資料等も参考として見る事ができるのかなと思いますので、次年度以降

調査研究委員の方の選出についても、もう少し吟味していく必要があるのではないかということを思います。

会 長：

そうしましたら、今のご意見が出た2冊、「体の仕組みとケア」と、それから「日本の歴史」ですね。これらについては一部不適切、または、子どもが戸惑うようなイラストがあるというご指摘がありましたですけれども、今回この2冊について、選定しないということになりますと、以前の採択本で、来年は学習を進めていくということになるかなと思います。

委 員：

一般図書の不適切さの度合いがポイントだと私は思っていて、特にイラストとか視覚的に入るものについては、要注意だと思うのですが、それをどの程度どう感じるか、先程もおっしゃっていましたけれども、女性はスカート、男性はズボンみたいな、そういう刷り込みの恐れがあるものと、今のその表紙の体重測定のイラストとの兼ね合いで。もう1つの歴史の方は、2回目の東京オリンピックが記載されていないけれども私は仕方がないだろうっていう気がするので、その辺はすべてを同じ基準で一刀両断に進められない現実もあるのかなと思います。

会 長：

今、一般図書ということで、明確な基準というものがあるわけではないということで、当然指導者が、これを教材としてどう扱うかというところで、そういう少し戸惑うようなところについては補足をするであるとか、保健の図書については表紙のことですので、今現在そういうような対応はしていないわけですので、そのことについて教師の方から説明が必要であればするというようなことは配慮していくべきかなと思います。しかしながら、なかなか一般図書で市販されているものの中から、教科書に代わるものとして使用するという事になりますので、そういう配慮しなければならないことは出てくることもあるかと思います。では、今回この7種の中で2種について採択するかどうかということについてご意見いただけますか。

委 員：

教える側が、補足することで済むようなものであれば、来年またってこともあるだろうけれども、体のこととか、そして、そういう時代の流れに反するようなのは、やはりちょっと立ち止まる必要があると思います。

会 長：

ありがとうございます。

他はどうでしょうか。

委 員：

一般図書ということで教科書ほどの完璧なものを求めことがやはり現実的には難しいと思います。不適切だというのが、例えば差別だとか人権とかそういうものを助長するようなものであれば当然それを採択すべきではないと思いますけれども、そこは補足なりで目を瞑るわけではないですけれども、ある意味価値判断としては、やむを得ないというところで採択するというのも1つの案かと思います。そこは、一般用図書のおっしゃるその代替性ですよね。代替図書があるかどうかということも考慮されるべきだと思いますし、ないのであれば、じゃあ使わないかとか、一昔前に

戻るかと言われると、その関係でいうと目を瞑れる範囲であれば、それは瞑って採択する方がいいのかなと思います。

会 長：

今、採択する方向でいいのではないかということでご意見いただきましたが、どうでしょうか。

委 員：

先程の表紙の部分であれば先生の補足で昔はこういうのだったのよってということから、今はこういうふうに変わったというように、今のそういうジェンダーのことを考える機会になればいいのかなと思いますので、補足ありきで採択で大丈夫ではないかと思います。

会 長：

指導者の側が配慮していくというようなことで対応できるのではないかなということですね。

委 員：

お尋ねなのですが、例えばそういう一般図書を子どもたちが家庭に持ち帰ることはあるのでしょうか。もしくは教室の中で、一緒に開いて使用するという活用なのでしょうか。

会 長：

事務局の方で、どうでしょうか。

事務局：

一般図書につきましては教科用図書と同様の扱いとしてここで認められるということは、1冊の教科書としてお子さんに渡されて、ご家庭に持って帰ってということはもちろんあります。通常の教科書と同様の扱いと思っていただけたらいいと思います。

委 員：

何かすごく悩ましいところなのですが、やはりそれが許容されるものなのかどうか、判断が難しいですね。

会 長：

子どもさんの状況によって説明が必要であれば、保護者含めてですね、しっかりとそういう説明をした上で、教科書として使いますよということを補足すればいいのではないかというふうに思いますけれども。

それでは、いただいた意見では、そういう配慮するということがあれば、前のものを使うのではなくて、今回、研究を経て上がってきた一般図書を使ってもいいのではないかなというご意見だったと思います。

それでは、この7種について、採択するということでよろしいでしょうか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

それでは異議がないようですので、この7種について、採択をするということとさせていただきます。今出たご意見につきましては、事務局の方で整理をして、また今後活用したいというふうに思います。

それでよろしいですか。

委 員：

それでいいと思います。ただ先程の調査員の先生方が、1年間ずっとこの教科書の採択に関わっている方ではないですね。私は1つの方法としては、こういう特別支援学級の一般図書については、県等がリストアップしてくれるともっと合理的で、もっと子どもに見合った部分が出てくるのではないかなということを思いますので、提案として県にも言っていかなければいけないかなと思います。

会 長：

一般図書の選定について、限られた期間で、調査研究員の方が研究をしていただいていると。もちろんその情報としては、普段の指導されている特別支援学級の担任の方からの情報も、持ち寄った上での選定、研究になっていると思いますけれども、今の状況でなかなか選定も大変なところもあるので、他にもう少し改善できないかというようなことは、県に伝えていく必要はあるかなというふうに思いますので、そういった意見を県の方に伝えていくということで、ご理解いただきたいと思います。

それでは、この7冊を選定するということにさせていただきます。

選定理由については文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきたいと思いますが、これでよろしいでしょうか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

ありがとうございます。

それでは、次に移らせていただきます。

<美術>

会 長：

来年度から使用する美術科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「美術科」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明につきまして、ご質問があればお願いします。

ございませんか。

それでは、調査員の先生ありがとうございました。

ただ今から協議に入りますので、ご退席ください。

（調査員 退出）

会 長：

それでは、協議に移ります。ご意見がある委員は発言をお願いします。

いかがでしょうか。

委員：

内容に関してはあまり詳しくは言えないのですが、保護者の立場からすると、学年を跨いで上下ってあるのが、とても扱い辛かったです。子どもたちは、学年ごとに教科書を整理して、片付けます。ある時、美術の教科書が2年3年で上、2年3年で下というふうに学年ごとに教科書が変わらないことに気づかず片付けたために一度家探ししたことがありました。ですので、今回の教科書について学年を跨ぐ上下でなかったらいいなというふうには思ってた教科書を見ていたところなんです。その中で調査員の方が、開隆堂とおっしゃったので、それは学年ごとなので、そういう意味ではないなというふうには思いました。

会長：

使い辛さというところで、ご意見いただきました。

他、どうでしょうか。

委員：

同じ「風神雷神」の絵でも、微妙に色が違ってくすんでいたり、何かぼやけていたりするけれど、美術だから余計その色彩とか、本物に近いとか、気になって比較したら、光村図書はこんな感じで、日本文教がこんな感じで、一番くすんでいるのは開隆堂と。私も本物を見たことないので、どれが本物に近いかわかりませんが、教科書を作るときには、特に美術は忠実にというか、本物に近いような色合いでできているのかなと想像します。どの教科書がいいのかはつきりとは言えませんが、そういう違いについて興味深く見させてもらいました。それから、「水と墨で描く世界」っていうことで感想のところにあったのですが、日本文教は「墨と水が描く世界」って題目にありました。そして、光村図書は「墨で表現する楽しさ」で、開隆堂は「墨から生まれる」と、それぞれ違って、一方で共通していることは、水の加減で墨がいろんな様子を表すということを強調しているなど、様々なのですが、そういう違いも、中学生にとってはどういうものがスッと入って、自分の制作活動に興味深く取り組めるのかなと考えて悩みました。でも、今、開隆堂を選んだ根拠を聞いて、それはそれでわかったのですが、何かすごく美術って、教科書1つにしても、この表紙にしても、深いなと思いました。

会長：

比べていくと、そういうタイトルからも工夫されて、生徒の興味関心に繋がっていきやすいだろうなと思われるものと、あまりこう繋がっていきにくいかなと思われるものと両面から考えられるのかなというふうに聞かせていただきました。

他はどうでしょうか。

委員：

私自身も美術の教科書を事前に拝見させていただいたときに、開隆堂がいいなと思いました。それは美術の教科書で、発色が良い方がというか、色が強めに出ている方がいいのか、その辺の専門的なことはわからないのですが、開隆堂が一番落ち着いた色み、紙面を見たときに、何となく全体的に落ち着いている感じがして、子どもたちの色彩から受ける印象というか、その印象を受けて、テンションが変に上がることなく、落ち着いて授業が受けられるので開隆堂がいいなと思いました。加えて、開隆堂の二次元コードのところに、この二次元コードにはこういう内容が入ってい

ますよという表記があるので、わかりやすいと思いました。開いた後に、こういう内容であれば見る必要はなかったということがないという点で評価しました。

会 長：

落ち着いて見られるというところと、二次元コードが事前に予測しやすいという工夫がされている点でご意見いただきました。

他はどうでしょうか。

委 員：

開隆堂の教科書の中で、一般の人が写真に写り込んでいる姿を見ても、古くないなと思って、良いなと思いました。他の教科書も同様かもしれませんが、写り込んでいる子ども、大人ともにその服装が古くない、最近の装いであることが、いいなと思いました。

会 長：

ありがとうございます。

他はどうでしょうか。

それでは、開隆堂を推す意見が多かったわけですが、選定させていただくこととしてよろしいか。

それでは、美術につきましては、開隆堂に選定するという事でよろしいでしょうか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

それで異議ないようですので、美術につきましては、開隆堂といたします。

選定につきましては文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて会長にご一任いただきたいと思いますが、それでよろしいか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

ありがとうございます。

<技術・家庭科(家庭分野)>

会 長：

それでは、来年度から使用します家庭科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「技術・家庭科(家庭分野)」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明につきまして、ご質問があればお願いします。

よろしいでしょうか。

それでは、調査員の先生ありがとうございました。

ただ今から協議に移りますので、ご退席ください。

(調査員 退出)

会 長：

それでは続けたいと思います。

家庭科について、ご意見がありましたらお願いします。

委 員：

開隆堂は、見やすいというか、問題点をきちんと最初書いてあり、どのように考えていけばいいのかということが的確に記載されており、私も欲しい教科書です。

会 長：

生徒の学びやすさとか見やすさ、というところで開隆堂がいいのではないかなというご意見でした。

他はどうでしょうか。

委 員：

全体的に開隆堂の方は評価が高いので、やはり調理の際の動画の左利きへの配慮という点も大変いいかなと思うので、開隆堂がいいと思います。

委 員：

私も開隆堂を一番に思っていたのですが、やはりパッと見たときに、料理の写真が目を引くので、教科書はそういうことで家庭科への興味へ向かうということもあるだろうし、そのレシピを3社比較してみると、開隆堂さんのレシピが1ページに1レシピっていう構成で見やすかったです。東京書籍のレシピも見やすかったのですが、料理の工程がよりすっきりとまとめられているのが開隆堂だったという点で優れていましたし、調査員の評価も高いので、このままでいいと思います。

会 長：

見やすさとか、使いやすさっていうところで言うと開隆堂がいいのではないかなというご意見でした。

他はどうでしょうか。

委 員：

今おっしゃった通り、見やすさという点では開隆堂かなと思いますし、丁寧に、今の料理のところで説明されていますし、先程委員がおっしゃったように、左利きの生徒の対応をしているという動画がある点でも、開隆堂がいいかなと思います。

会 長：

きめ細かな配慮がされているというところで、開隆堂がいいのではないかなというご意見です。

他、よろしいですか。

ございませんか。

それでは開隆堂を推す意見が多かったように思います。

この場で選定をしたいと思います。

開隆堂に選定するということでよろしいでしょうか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

ありがとうございます。

それでは、家庭科につきましては開隆堂といたします。

選定理由につきましては文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

ありがとうございます。

<保健体育科>

会 長：

それでは、来年度から使用する保健体育科の教科用図書について、説明をお願いします。

調査員：

「保健体育科」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明につきまして、ご質問があればお願いします。

私から1点お願いします。

観点Dのところ、子どもにとっての使いやすさについて、デジタルコンテンツを例に説明いただきましたが、デジタルコンテンツ以外の子どもにとっての使いやすさという点では何かありましたでしょうか。

調査員：

もう1点ですね、教科書の見やすさという点、レイアウトも含めて確認をさせていただいています。その調査においては、東京書籍の本文の文字量、それから色遣いが非常に落ち着いていて、子どもにとっても教師にとっても見やすいであろうと調査の結果をまとめさせていただきました。

それと、もう1社、Gakken ですが、他社と比べて見ていただくと、Gakken の方は、余白の部分が 많습니다。資料と本文を区切る罫線なども少なく、気がついたことをこの余白に書き込めるような教科書だという点で評価をさせていただきました。

他には、先程の大日本図書については、右と左に本文と資料が分かれているということで、子どもによっては分けられていることが、見にくさや、使いにくさを感じる子どもがいるかもしれないという意見がありました。また、大修館書籍においては、見開きの2ページが、黒板のような使い方、つまり左のページ、右のページということではなくて、一番上の「課題をつかむ」というところから、その右側のページの「今日の学習」ということが、横向きに見なければいけなくなっているという点で、左を見て右のページというふうにはなっていないところが、他の教科の教科書を使っている中では違和感があるのではないか、という調査結果でした。

会 長：

はい。ありがとうございます。

他ご質問ございませんか。

よろしいですか。

調査員の先生ありがとうございました。これから協議に入りますので、ご退席ください。

(調査員 退出)

会 長：

それでは協議に入らせていただきます。

ご意見がある委員の方は発言をお願いします。

委 員：

迷いましたが、私自身が見ていて一番わかりやすいのが大日本図書でした。先程調査員の先生のご説明にもありましたが、大人が見て、教師が見て使いやすいのは大日本図書かなと。ただ、その中で子どもの使いやすさを考えたときに、デジタルコンテンツの中身を含めて、主体的に子どもが使うのであれば東京書籍だという話があったと思うので、子ども中心に考えた場合、東京書籍かなと思いました。

会 長：

子どもの使いやすさということで見ると、東京書籍がいいのではないかなというご意見でした。

他はどうでしょうか。

委 員：

今おっしゃられたように、大人が見て思うと大修館書籍も甲乙つけがたいというのは正直な感想でした。大人目線になりますので、そのあたりはもう研究いただいて子ども目線で見やすいという結果をいただいたのであれば、そちらの方を尊重すべきところかなというふうには思います。

会 長：

ありがとうございます。

子どもの目線で、見やすさという点で、ご発言いただきました。

他はどうでしょうか。

委 員：

私も最初、大日本図書がいいかなと思いましたが、色々な箇所において、主体的な学びに繋がるような工夫もされていましたし、文字の量はいろいろ考えて、まとめているようなところもありましたので、東京書籍でいいかなと思います。

委 員：

東京書籍の内容が中学生のときに知っておいて欲しい生殖機能とか心の発達とか、そういうことがすごく丁寧に書かれており、わかりやすいこと、また飲酒や喫煙、薬物についても、子どもたちが自分のこととして考えやすいような書き方をしてくれているなという印象がありました。

会 長：

ありがとうございます。

子ども自身の問題として学びやすいというようなことかなと思います。

他はどうでしょうか。

委員：

私も東京書籍がいいなと思っています。二次元コードを読み込んでみたときに、すごくわかりやすかったです。量も適量だと思います。何もかもデジタルコンテンツがいいというわけでもないでしょうし、これぐらいの二次元コードで読んで、そして、またわかりやすいようであれば、学びがここにも広がり、深まっていくことは、生徒にとっていいと思いました。また、やはりタイトルとして、パッと見たときに、何の勉強かということが、左上に大きく、目立つ色とともに見えることと、字体も見やすいなと思って評価していたのが東京書籍でしたので、私もこのままでいいと思います。

会長：

生徒のわかりやすさとか、学びやすさという点でご意見いただきました。

他はどうでしょうか。

それでは、保健体育科については、東京書籍を推す意見がほとんどでしたが、この場で選定をしたいと思います。よろしいか。

それでは、保健体育科につきましては、東京書籍に選定ということでよろしいですか。

委員：

(異議なし)

会長：

ありがとうございます。

それでは、東京書籍といたします。

選定理由については、文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて会長にご一任いただきたいと思います。それでよろしいでしょうか。

委員：

(異議なし)

会長：

ありがとうございます。

<国語科>

会長：

それでは続きまして来年度から使用します、国語科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「国語科」の教科用図書について、調査内容の説明

会長：

ただ今の説明に対しまして、何かご質問がありましたらお願いします。

委員：

確認ですが、選定の流れとしては4社ありますが、光村図書と三省堂にまず絞り、その2つで後

の観点のB、C、Dを考えていったという流れで理解してよろしいでしょうか。

調査員：

いえ、学習の流れのページ等はすべての会社で比較して、さらに詳しく見ていきました。つまり、一通り4社等を見てから2社に絞って、もう一度見直しています。

会 長：

よろしいですか。

他に質問ございませんか。

委 員：

調査員の評価では、光村図書の学びに向かう観点Cが特に優れているとなっています。一方、県の参考資料で見ていると、県の資料は丸が1つだけになっています。その違いについて、調査された中で説明できる点がありましたらお願いします。

調査員：

実際に授業をされている先生方と一緒に見えていますので、授業者の目線で見られる部分は多いと思います。ICTのことですとか、詳しく見ていくと、やはり県の評価とは違うかもしれませんが、ここに書かせていただいたような、良い点があるというふうに市の調査員会では判断しました。

委 員：

私も今のお話にあったように、各社それぞれ良い点があり迷うだろうなと思っていました。でも教師にとっての扱い方とかそういう点で見ていただくと、違いが見えてくるだろうけど、それでもどちらも捨てがたいなと思いながら聞かせてもらいました。私自身で見たときに、表紙がすごく印象的でした。これが1学年の表紙、これが3学年の表紙。（表紙の挿絵が3学年で繋がっている様子を示す）こうなっているので、全部意味があるような気がして、すごく印象的だなと思いました。子どもって手にとったときに、そういうのってすごく一生ものとして残るということもあるので、まずそこが光村図書が昔から表紙や挿し絵にも力を入れていて確かにいいなと思って見ていました。

それから、先程お話があったのですが、「語彙ブック」については、光村図書の特徴だと思うのですが、一方でそれも活用する側の、活用の仕方が変わってくるので一概に良いとは判断できないなと思って見ていました。

それから先ほどの説明にもありましたが、説明文も、文章と写真で比較したり、批評したりと、すごく多彩な題材で、色々な見方や考え方に触れることができました。三省堂と比較したときに、大差はないのですが、少し光村図書の方がいいかなという点がありましたが、もう最後の最後まで悩ましく思いました。

文学の方では、ずっと採用されている教材、また逆に時代に合ったような新しい教材があり、共に捨てがたいなと思って見ていました。1つ悩んだのは、三省堂の教科書に「歌の言葉」とあって、3年生は YOASOBI の「群青」、2年生が Official 髭男 dism の「宿命」、1年生が緑黄色社会の「始まりの歌」で、テレビを見ていると、それらの曲を聴くことがあるような、多分その時の流行り廃りというか、そういうことを教材として取り上げていくと、子どもは身近に感じるだろうけれども、その取り上げ方にもよるので悩ましいなと思ったのですが、そういう話題は調査員会の中で出て

きましたか。

調査員：

おっしゃる通りのことを、調査員としても、やはり意見としては出てきていました。

非常に読み応えがある文章はある程度、やはり教師の力量が問われる部分があると思いますし、でもだからこそ、工夫をして授業を進めていくって意味では、そういう文章と出会う方が教師自身も勉強のためにもいいのではないかという意見もありましたし、「緑黄色社会」とか、今の生徒が知っているような、テレビに出てくるような方たちの歌とかの言葉をそのまま載せてあるというのも、興味を引き出すには一つの良い方法だという意見もありました。ただ、それをどう活用するのかという点について、少し悩ましいところがあるなという意見が出てきていました。

会 長：

他はどうでしょうか。

委 員：

Aの観点の知識及び技能のところで、我が国の言語文化に関する事項の数というか、そういうものは、三省堂と光村図書とそう大差がなかったということによろしいですか。

調査員：

はい。それほど大きな差があるというふうには感じておりません。

会 長：

私の方から1点。読書活動への発展というか、そのことについても調査されたように、先程ちよつと言われたのですが、その点について、三省堂と光村図書について、どういう内容であったか教えていただけますか。

調査員：

まずは、取り上げられている本の数が多いのは光村図書の方だなという意見がありました。三省堂も割と多い方だとは思ったのですが、さらにその紹介の仕方について1つご説明させていただきましたが、翻訳の本の紹介の仕方は今までになかった新たな視点だということで、良い評価として調査員の間では意見が出ていました。

会 長：

ありがとうございます。

他ご質問ございませんか。

それでは、調査員の先生どうもありがとうございました。

これから協議に移りますので、ご退席ください。

(調査員 退出)

会 長：

それでは協議に入らせていただきます。

ご意見のある委員は発言をお願いします。

委 員：

確かに三省堂と光村図書って拮抗したなっていう感じがするのですが、最後に聞かれた読書活

動への誘いの部分で、今回の全国学力・学習状況調査でも、もう読書に関する児童生徒質問紙の事項がなくなってしまうていますよね。いつからそんな簡単に扱われるようになったのかなというふうなことを少し思っていて、そういう意味では、やはり読書活動第一というあたりで、丁寧にそういう部分も、生徒にとって配慮がある教科書は私はいいなと思っています。

会 長：

読書活動のへの繋がりという観点からご意見いただきました。

他の委員の方どうでしょうか。

委 員：

この2社の比べたときに、先程おっしゃられた「学びの扉」と「学びの道しるべ」の本文を基にした、その頭の整理をする部分のところかというと、こちらの三省堂の方は、同じ縦書きでずっと単調に続いているような感じを正直受けました。一方、こちら「学びの扉」の光村図書の方で言うと、ここで敢えて横書きにして、箱で整理しているというところで、頭の整理がよりし易いのかなというふうには思ったところになります。あともう1点、光村図書の教科書の方で、文章の書き方について、根拠を明確にして書こうというところが140ページにあるのですが、文章の書き方って多分中学生の子はなかなか小論文を書くこともあまり経験したこともなくて、どういう順序で書いていけば良いか、感想文との違いもよくわからない中で、そのあたりの違い、根拠を明確に書くとかですね、この整理のこともしっかり書いてあって、非常にわかりやすく、ためになる記載の仕方だと思いました。

会 長：

ありがとうございます。

学びについて整理するということから、それから、表現について非常に支援できるような内容になっているということでご意見いただきました。

他はどうでしょうか。

委 員：

今、それぞれの委員が言われたことと同じですが、ちょっと私もだいぶ目が疲れていて、色合いがすごく気になるんですね。私もやはり三省堂か光村図書かなと思うのですが、ずっと見てみると光村図書の方が視覚、目にはやさしいかなと思いました。三省堂の方は、後の方がオレンジっぽいのが目に入ってきたと感じました。一方で、私は三省堂のどの学年にも百人一首が掲載されている点は評価できるポイントだと思いました。しかしながら、最終トータル的には光村図書かなという感じでした。

会 長：

ありがとうございます。

見やすさというような点、光村図書の方が見やすいのではないかなということでした。

他はどうでしょうか。

委 員：

全体的に見て光村図書の本は、やはり色合いがやさしいので、私も見やすいなと思います。他の委員さんが言われたみたいに、見て欲しいところは強調するかのように横書き等、違う形になっ

ていることも見やすい工夫だと思います。

会 長：

レイアウト等を工夫してあるということですね。

他、よろしいですか。

それでは光村図書を推す意見が多かったわけですが、この場で選定をしたいと思います。

国語科につきましては、光村図書に選定ということでよろしいでしょうか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

異議ないようですので、国語科につきましては、光村図書といたします。

選定理由につきましては文言を整理し、本日いただいたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきますと思いますが、それでよろしいですか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

ありがとうございます。

<数学科>

会 長：

それでは来年度から使用します、数学科の教科用図書について、調査結果の説明をお願いします。

調査員：

「数学科」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

ただ今の説明につきまして、ご質問のある委員をお願いします。

委 員：

観点Bの思考力・判断力・表現力等の中で、最近、算数・数学でも、自分の考えを表現したりとか、説明したりというようなことが結構学習活動の中で強調されていますけれども、その辺りの最終的に評価の高かった3社の見比べというか、特に何か意見が出ていましたら、お聞かせいただきたいと思います。

調査員：

その点を表現するのはなかなか難しいところがあります。

3社とも工夫をしておりますので、3社とも平たく言うときよく似ています。評価をつけておりますのは複数名でやっておりますので、数値的にちょっとでこぼこが出ましたので、特に優れているとつけるのであれば教育出版と啓林館であるなというぐらいで、大きな差はございません。

会 長：

他ございませんか。

よろしいですか。

それでは、調査員の先生ありがとうございました。

これから協議に移りますので、ご退席ください。

(調査員 退出)

会 長:

それでは協議に入らせていただきます。

ご意見がある委員の方はご発言をお願いします。

委 員:

調査委員の先生がいるときに聞くべきことだったのですが、迷っていたうちに、ですけど、ちょっと疑問に思ったことなのですが、数学の一番最初のところに、正の数と負の数っていうのが出ていて、それはどこの教科書会社も一緒なのですが、小学校からの繋がりを思うと、自然数と素数から入る、なんて言うのかな。自然数をもとに素数、そして一番最後に、数の集まりとなって、流れがその方がいいのかなって思う部分と、もう1つ学校図書とか啓林館とか、日本文教とか数研出版は、正の数と負の数のところに加法、減法、乗法、除法が入って、逆のような入り方で最後は同じところに行く学び方という印象でした。中学校の先生とすればどちらが教えやすいのかなと思って疑問でした。

委 員:

私の専門教科は数学でしたのでおっしゃることはわかります。私もそれをずっと懸念していて、啓林館のときも、正の数、負の数を先に学習します。小学校の復習を後回しにして、そして累乗とか素数とか正の数の順ですよ。私は、授業では教科書とは逆の順序で授業をしていたことがあります。だから、おっしゃる通りだと思っています。今、採択しようとしているのは全部、今懸念されている部分がある教科書ばかりで、私も引っかかっていました。教師によって単元の順番を変えて授業をすることは可能かなと思いますが、ただ、今言っている懸念される部分については、1年生の教科書はすべて逆の順序になっているので、そこは心配します。

委 員:

学校図書の方がいいと思われるのは、数全体の集合を考えて、整数に負の数も含まれるよということを押さえた方が理解されやすく、そのような構成になっているのか、どちらなのかなという疑問です。中学校で教えたことがないので、その辺が不確かです。

委 員:

意図はそうだと思います。おっしゃっている意図で作られていると思いますけど、ただ子どもの理解として、負の数というのは難しいですよ、感覚が。これを先に入れるのは、私はちょっとマイナスかと思って、小学校の延長の数字、正の数の部分から始めて、正の数の自然数とか、素数とかの話をしてから負の数に入りましたけど。どちらがいいかわかりませんけど。だから、中学校の数学で一番引っかかるのが2ヶ所あって、1つは今のマイナスの入った概念。もう1つは文字が入ってきたところ、この2ヶ所で一番ぶつかりますね。

会 長:

今、調査員会で評価が高かったものについては、同じ入り方、ということで、確かに大日本図書とかは、自然数からになっていますね。小学校との接続というところで、そういう課題については指導者の側の持っていき方かなと思いますけど、総合的に今、調査研究いただいた中では、その3社について高かったので、この中、これらの内容について議論を進められればと思います。

他、ご意見ありましたらお願いします。

委員：

いろんなパターンで授業をしてきましたので、どれが一番いいかっていうのはなかなかないのですが、私が現役の時は大日本図書が一番使いやすかったと思っています。ただ、啓林館のときは啓林館で使いやすかったなっていうのは思います。啓林館も、先程堅いという表現をされたと思うのですが、きちっと押さえるところは押さえる教科書だと思いますし、ただ、先程言ったように、ちょっと順番を変えて授業した方がいいよねっていうところはあったので、それは教員によって多少組み替えができるかなとも思います。今の調査員の報告を聞いた中だと、学校図書になってくるのかなと思いますが、個人的には啓林館も学校図書も大きくは変わらない気がします。学校図書を今まで採択したことないという意味で馴染みがないという違いだけだと思います。

委員：

事務局の方でわかりますか。学校図書の採択実績はありますか。

事務局：

過去をさかのぼってどこまでっていう確認をしておりませんのではっきりとしたことは言えませんが、事務局内で確認しているところでは、今まで学校図書を採択したことはないのかなと思います。

事務局：

加えて申しますと、滋賀県内でも学校図書の採択は、ここ20年はないかと思いますが、全国で言いますと、決して少ないと言うわけではございません。

会長：

ありがとうございました。

甲乙つけがたいということ、調査員も説明の中でもありましたが、いかがでしょうか。

委員：

調査研究の結果と、それから我々が特に拮抗したところで見感じる、その部分で判断しないといけないという気はしています。

委員：

まず、もともと啓林館を使っておられてそのあとで大日本に今なっている流れですね。その変わったときの経緯、何かその啓林館が良くないからとかいう話ではなく、大日本図書がよかった、ということで変わったという流れとかそのあたりで何か、どういう流れで啓林館だったものが大日本図書に変わったのかっていうところの情報って何かあれば教えていただければと思うのですが、何かありますか。

委員：

実はその時の調査に関わったのは私なんです。啓林館と大日本図書を比べたときに、この2

社が拮抗していました。その時の決め手は、単元の教える順番でした。単元の中の教える順番がここはちょっと変えたほうがいいな、というところが啓林館には幾つかありました。それが大日本図書はずっと解決できまして。あとは問題の数的には啓林館が多いのですが、そのために余白が少なかった。だから教科書を見たときにパッと数字がページ全体に広がる印象だったので、これはちょっと嫌がるのではないかと、子どもたちにとってある程度余白が多いほうがいいな、ということで大日本図書になったと、私は記憶しています。その時の調査員が、私を含めて4名いまして、この内全員が大日本図書という評価をしましたので、大日本図書として採択協議会に報告しました。ただ、心配していたのは啓林館をずっと使っていたのに、変えるという大きな仕事になったので、そこが一番私は懸念していましたが、採択していただきました。あとは、小学校が前年度に啓林館から大日本図書に変わっていたことも、少なからず影響があったと思います。

委員：

今のお話の、大日本図書に変わった流れのところで、結局今回大日本図書が選択肢から、今のところ外れているような状況で、啓林館と他の2社も同じ流れになっている。そこで差がつかないという話になってくる。特に啓林館が前に、特にネガティブなことがあったわけでもない。しかも、もともと実績があるということであれば、実際そこのお話、先程調査員からご説明いただいたのも、学校図書と甲乙つけがたいってなるのであれば、実績がもともとあった方、ベテランの先生方が慣れておられる滋賀県でも採用実績が学校図書はないとなってくるのであれば、啓林館っていうものをやはりステージに上げてきてもいいような気はして聞いておりました。

個人的にはすいません数研出版が好きだなと思って見ていたのですが、そこは置いといて、というところ思いましたので、私は啓林館の方を上げてもいいような気はしています。

会長：

ありがとうございます。

他はどうでしょうか。

委員：

少し時間をとって申し訳ないですが、啓林館と学校図書とどちらかを選択するときに、調査委員会の中で、その2つの会社の評価について、もう一度詳しく調査員から話を聞くことはできませんか。

会長：

構わないと思います。

情報を得て、我々が判断するというのは、それはいいと思います。つまり、情報が不足する中で、なかなか判断に迷うというときは、やはり再度詳しく聞かせてもらおうということは私はいいのではないかなと思います。

（調査員 着席）

会長：

それでは、調査員の先生、退席いただいてから、再度詳しく質問をさせていただきたいことが出てきましたので、委員の方から聞いていただけますか。

委 員：

今、学校図書を第1候補として挙げていただいています。啓林館が第2候補になっているわけですよね。この2つで今どうするかというので、学校図書自身が、いわゆる採択した経過がない会社です。そして、啓林館は大日本図書の前にずっと採択されていました。先程この2社について、中身は拮抗しているということでしたが、調査員の中で、啓林館と学校図書のこの2社について、何か議論があったのであれば、その内容を教えていただければと思います。

調査員：

先程も申し上げましたが、3社を深めて検討するというのが最終段階でございましたが、実は最初の段階からも数値的には学校図書が頭一つ抜けて良い評価でした。調査員の中でこの学校図書というのは今まで使ったことはない。だから、それでこれをどうだろうっていうような話もありました。しかし、私が見ているとやはり一番出来がいいのが学校図書だと思っています。特に、第4ブロック独自の観点の子どもにとって使いやすさっていう点で考えると、その部分での学校図書は他の追従を許さないところがあります。

ICTの部分もそうですし、ユニバーサルデザインの観点から、見やすさ、使いやすさというところは、やはり一番いいのではないかなと思っています。教師にとっての使いやすさというのは私は二の次だと思っていて、子どもにとって使いやすいのはどれかというのでいくと、啓林館と学校図書で比較すると、学校図書の方が、数段上だと思っております。

先程も申しましたが、ざっくりと啓林館は手堅い。手堅い教科書で悪くないですが、学校図書は子どもにとっての使いやすさというところにやはり重点を持っているのかなと私は感じております。

委 員：

他の調査員の方も、先生と同じようなことを言っておられるのですか。使いやすさについて。

調査員：

学校図書について、何か編集に力を感じるなと思って調べさせてもらいましたが、調べてみますと、チャート式で有名な数研出版と合併しているというような経過の会社と知り、納得したところでございます。先程まで調査員としては推薦していましたが、やはり今使っていないところでは弱いですねっていうふうに出ていましたので、これも追加させていただきます。以上です。

会 長：

他、質問ございますか。

ございませんか。

調査員の先生、一旦退出いただいたのに、また戻す形ですみませんでした。ありがとうございました。

(調査員 退出)

会 長：

今、調査の中身について、より詳細に説明いただきましたが、啓林館と学校図書というところで選んでいきたいと思うのですが、どうでしょう。この2社についてご意見がありましたらお願いした

いと思います。

委員：

今、調査員に再度来てもらって聞いた話の中でもう子どもが使いやすいというね。そこがもうはっきりしているの、それならば学校図書でいったらどうかと、いうふうに思います。

委員：

私も先程啓林館の方、最初の話のときにあんまりこう今ぐらいの自信を持った強気な発言がなかったところで、甲乙つけがたいという話だったので、そこは敢えて新しいものを採る必要はあるのか、ということで先程発言させていただきました。ただ、今はっきりと子どもの立場でこちらがいいということを断言されましたし、チャート式という昔から、歴史のあるものを引き継いでされている数学の教科書だということもわかりましたので、それであれば調査員の先生の意見というのを当然重視するべきかなと思います。

会長：

ありがとうございます。

他はどうでしょうか。

委員：

先程は別の進め方で言いましたけど、3年生の式の計算で多項式とか因数分解のところがありますが、それは面積から入ってこうやるやり方を、学校図書と日本文教と、大日本図書がやっていて、他の啓林館はトランプが出てきたり、数研出版と教育出版はカレンダーが出てきたりで、なかなか導入としてすっきりと入りにくいところがありました。だから、その単位によって、どちらがいいのかということは一概に言えませんので、1つ1つについては使用する時点において、各学校で主任さんを中心に、しっかりと教材研究するというふうに進めていけば、そんなに大差ないことだと思直しました。

会長：

先程の小学校からの接続に関わってのところかなと思います。

他はどうでしょうか。

委員：

私も数学については詳しくないですが、この練習問題の答えというのは教科書には載っていないものなのではないでしょうか。啓林館の方を見ると、普通の練習問題と記載があるところの、答えがないなと思っていました。授業の中で確認するのかなと思ったのですが、学校図書の方は、そういった確かめようとか高めようの問題は二次元コードで、デジタルによって解答が全部載っています。例えば、私が今見ているのは啓林館の32ページなのですが、この練習問題の答えはどこにあるのか、すぐに見つけられないと思っています。

それと別件で、啓林館の33ページの1年生の教科書なのですが、乗法、除法のところと、学校図書の乗法、除法、1年生35ページを比べたら、やはりそのわかりやすさでいうと、図や絵で説明しておられるので、こういうところなのかなと思っていました。今、横を見たときに、計算力を高めようという箇所、学校図書の34ページの練習問題の答えは、二次元コードの解答を見つけられるのですが、啓林館の32ページの答えはあるのかなと、今探していました。加えて、ユニバーサル

デザインと説明されたことは、確かにそうだと思います。

会 長：

他はどうですか。

よろしいですか。

もう、ご意見は出尽くしたでしょうか。

それではまず、再度調査員の先生の方に確認をさせていただきまして、第4ブロックの観点、子どもにとっての使いやすさというところを考えていくと、学校図書の方がいいのではないかなというご意見でした。

それでは、学校図書を数学科については、選定ということでよろしいでしょうか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

はい。それでは数学科につきましては学校図書といたします。

選定理由につきましては文言を整理し本日いただきましたご意見を踏まえて、会長にご一任いただきたいと思います。それでよろしいでしょうか。

委 員：

（異議なし）

会 長：

ありがとうございます。

<理科>

会 長：

それでは、来年度使用する理科の教科用図書について説明をいただきます。

調査員：

「理科」の教科用図書について、調査内容の説明

会 長：

それではただ今の説明につきまして、ご質問のある委員はご発言をお願いします。

ございませんか。

それでは調査員の先生ありがとうございました。

協議に移らせていただきますので、ご退席ください。

（調査員 退出）

会 長：

ご意見がありましたらお願いします。

委 員：

理科の方は今も報告書が別紙で挙げられていて、非常にわかりやすく報告いただいたなということだと思います。掲載されている写真等が綺麗なのは、最終的に啓林館かなとは思いますが、

子どもにとっての使いやすさの方が東京書籍は特に優れているが1年、2年もあったので、それが少し気になるところです。ただ、項目を順に見ていくと、子どもにとっての使いやすさと教師の立場にとっての教えやすさはクロスの関係というか別物になっているのかなと思いました。

会 長：

はい。ありがとうございます。

他はどうでしょうか。

委 員：

ぱっと見た感じ、啓林館と東京書籍は見えても綺麗なイラストとかが多くて、大日本図書は若干絵が少なく、字が多い気がしました。これが勉強する子どもたちにとってどちらがいいのかが私には判断がつかないのですが、視覚的に自分がもし勉強する立場だったら啓林館が勉強していて楽しいかなと思います。

会 長：

大日本図書の場合はちょっと版が小さいですね。その点で、少し見え方が違うのかなと思いますけれども、今、見やすさや掲載されている写真の美しさでいうと、啓林館また東京書籍がいいのではないかなというご意見でした。

他、どうですか。

委 員：

これからますます理科好きな生徒が増えて欲しいなと思っているので、観点Cのところの評価が、啓林館の部分がとっても高い。この辺りは大変いいなと思っていますので、啓林館が良いのではないかなと思っています。

会 長：

学びに向かう力・人間性のところが、啓林館の方が群を抜いているということでのご意見でした。

他はどうでしょうか。

委 員：

私も今おっしゃられたように、理科に関しては、その学びに向かう姿勢というかが本当に重要なのところだと思いますので、ここで群を抜いているという評価をいただいている以上はなかなか他を採用という選択肢はないのかなというふうに思っていて聞いておりました。

会 長：

はいありがとうございます。

他ございますか。

それでは啓林館を推す意見が多かったわけですが、ここで選定をさせていただきたいと思います。

理科については、啓林館を選定するということでよろしいでしょうか。

委 員：

(異議なし)

会 長：

それでは理科につきましては、啓林館を選定させていただきます。

選定理由につきましては文言を整理し、本日いただきましたご意見を踏まえて、会長にご一任
いただきたいと思います。よろしいですか。

委員：

(異議なし)

会長：

ありがとうございます。

<小学校の教科用図書>

それでは、続きまして、小学校の教科書の確認を行います。

事務局お願いします。

事務局：

小学校の各教科につきましては、資料6の方をご覧ください。

前回の採択教科書と採択理由の資料をお付けさせていただいております。第4地区において小
学校は昨年度採択されました教科書の一覧です。学校から使用にあたって特に支障があったと
は聞いておりません。次年度も引き続いてこの教科書で学ぶこととなります。ご確認をお願いいた
します。

会長：

はい。小学校については昨年度採択をしまして今年度使用しております。

問題なく、使用されているということで報告ありましたが、この教科書の使用についてご異議は
ございませんか。

委員：

(異議なし)

会長：

異議がないようですので、小学校につきましては、引き続き、これらの教科書を使用していくと
いうことで確認をさせていただきます。

会長：

それでは、連絡事項に移ります。事務局からお願いします。

事務局：

・今後の予定について説明

事務局：

では、最後に、本協議会副会長から閉会の挨拶を申し上げます。

副会長：

・閉会のあいさつ

事務局：

ありがとうございました。以上で、滋賀県第4地区 令和7年度使用教科用図書 第2回採択協
議会を閉じさせていただきます。